

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|--------|-----------------|--|---------------------|----------------------------------|
| 科 目 名 | 論理学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 横山 ひとみ | 実務経験と その関連資格 | | | |
| <p>《授業科目における学習内容》</p> <p>正しい思考過程を経て真の認識に達するために、思考の法則・形式を明らかにする学問である。現代の看護実践には科学的根拠を追及する思考が必要である。論理学を用いて論理的思考ができ、効果的に看護実践に活用する方法を学ぶことをねらいとする。</p> <p>1. 物事の筋道を理解して順序立てて考えることができる</p> <p>2. わかりやすく表現できる能力を養う</p> <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する</p> <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>論理の基礎と活用 北樹出版</p> <p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義で学んだ論理的思考のあり方を普段の生活の中で活用し、論理的思考能力を養うようにする。</p> <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>基本的な用語の理解を重ねていけるようにしてください。</p> | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 論理学を学ぶ意義について説明できる。 2. 他者を尊重しつつ、自分の意見を述べるためのあり方について述べるができる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 論理学とはどのようなものか教科書のイントロダクションを読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | ガイダンス、イントロダクション 「主張相互の関係」の講義と演習問題を行う | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.論理的思考における暗黙の前提について説明できる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「暗黙の前提」の講義と演習問題を行う | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 推論とはどのようなことか説明できる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「妥当な推論」の講義と演習問題を行う | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 三段論法の思考のあり方について述べるができる。(肯定式、否定式) | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「論理カトレーニング I」ならば、または、についての講義と演習問題を行う(過言三段論法、肯定式、否定式) | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 三段論法の思考のあり方について述べるができる。(両方論法) | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「論理カトレーニング I」ならば、または、についての講義と演習問題を行う(過言三段論法、両方論法) | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|---------------------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 全体と部分について論理的に考える思考法について説明できる | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 「論理カトレーニングⅡ」すべて、ある、についての講義と演習問題を行う | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 集合の関係を踏まえた論理的な思考のあり方について説明できる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 「論理カトレーニングⅡ」定言三段論法とベン図についての講義 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 判断と思考をつなぐ推論、推測、演繹、帰納の基本的な用語について説明できる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 推論と推測、演繹と帰納についての講義 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 新しい知識を創造していくための論理的思考のあり方について述べることができる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 知識成長・改善と論理についての講義 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 論述文とはどのようなものか説明できる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 知識成長・改善と論理についての続きを講義 論述文と論理の講義を行う | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 論理的思考を用いて文章を書くことができる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 論述文の要旨を書くトレーニングを行う 論述文(短)を書くトレーニングを行う | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 他者の表現から論理的思考について考え、よいものの根拠について述べるができる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | グループディスカッションを行い、今後に活かそうな他者の要旨や論述文について、よいものを理由と共に挙げる | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 論述文を読解し、その内容の要旨を記述できる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 論述文の読解、および要旨を書くトレーニングの2回目を行う | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 問題解決思考の構成について理解し、思考を記述できる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 論述文(長)を書くトレーニングを行う 問題解決と論理についての講義を行う | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 他者の表現から論理的思考について考え、よいものの根拠について述べるができる。 | 教科書 授業資料 演習問題 | 教科書の該当章を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | グループディスカッションを行い、今後に活かそうな他者のよい点等について議論した | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-------------|---|---------|-------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 看護と人間工学 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 15 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 松本 健吾 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 看護の場面では物理的なものの見方や、人間の体の運動生理学と力学を関連させたメカニズムを理解し、安全・安楽な移動の援助に活用する。 1. 様々な現象を物理学的に理解する手法を身につける 2. 現代の科学技術の基礎として物理学の役割と重要性を知る 3. 医療を実践していく上で必要な物理学的思考を身につける | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 ベッドサイドを科学する 学研 看護学生のための物理学 医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 日ごろの生活の中での現象を学習内容と照らし合わせて、物理学的な視点で観る目を養う。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 予習・復習をすて¥¥ | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 体位変換の原理となる物理的原理について述べるができる。 | | 教科書 授業資料 | 教科書の該当章を読む おく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 第一章 質点の力学 ・力のつりあい、合成、分解 ・基本単位と組み立て単位 ・ニュートンの運動法則 | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人が転倒しやすくなるのを防ぐための物理的原理について述べるができる | | 教科書 授業資料 | 教科書の該当章を読む おく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 第一章 質点の力学 ・力の単位、垂直抗力、摩擦力 第二章 トルクとは、剛体のつりあい | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人が安定しやすい体位を得るための物理的原理について述べるができる。 | | 教科書 授業資料 | 教科書の該当章を読む おく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 第二章 剛体の力学 ・三角比、トルクの計算、重心と安定性 | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人が安定しやすい体位を得るための物理的原理について述べるができる。 2. 点滴の原理について述べるができる | | 教科書 授業資料 | 教科書の該当章を読む おく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 第二章 剛体の力学 ・体位変換 第一章 質点の力学 ・速度と単位、点滴の速度 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血圧、酸素ポンプ、低圧持続吸引など圧力との関連について原理を述べるができる | | 教科書 授業資料 | 教科書の該当章を読む おく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 第三章 流体 ・比重と浮力、粘性 第四章 圧力 ・圧力、気圧 | | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|-------------|----------------------|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 点滴やドレーンの基本原理となる物理的現象について述べる ことができる。 | 教科書 授業資料 | 教科書の該当章を 読む おく |
| | 各コマにおける授業予定 | 第四章 圧力・水圧、血圧、酸素ポンペ、サイフォンの原理 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 看護に必要な電気の基本について述べる ことができる | 教科書 授業資料 | 教科書の該当章を 読む おく |
| | 各コマにおける授業予定 | 第六章 熱現象、比熱 第七章 音、音の三要素 第五章 電圧、電流、抵抗、アース | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 終講試験・レポート | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-------------|--|-----------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 情報科学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | PCルーム |
| 担 当 教 員 | 鈴木 大空 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 情報科学社会にある現代の個人情報の意味や課題などを学び、情報収集する際の取り扱いの意味を理解する。さらに、コンピュータの基本構成・動作を理解し、効果的伝達手段の活用方法を学ぶ。 また、レポート作成・プレゼンテーション・電子カルテ等に応用できる能力へとつなげていく。 1. コンピューターに慣れ親しみ、演習を通して、その基本的な操作方法やソフトウェアの使用方法を習得する | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する 出席(20%)、実技試験(20%)、授業態度(20%)、筆記試験(40%) | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 1人1台ずつのコンピューターで演習を行う。 情報リテラシーWindows7/Office2007 系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 コンピューターに触れる機会があれば、学習内容を振り返り取り入れていく | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 情報倫理には十分に留意する | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. ワードを入力できる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | タイピング練習、Word文書入力まで | | | |
| 第2回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 書式設定を行い、ワード文書の作成ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | タイピング練習、書式設定、練習問題 | | | |
| 第3回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. ワード文書で表作成ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | Word、表の設定、練習問題、タイピング練習 | | | |
| 第4回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. エクセルの入力ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | Excel、計算式の入力、タイピング練習 | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. エクセルで関数設定、グラフの作成ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | タイピング練習、Excel、関数の設定、グラフの作成 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|--|-----------------|-------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. ワード、エクセルでの入力ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 タイピング、Word、Excel、小テスト | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. エクセルで資料作成ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 タイピング、Excel、データベース、練習問題 | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. パワーポイントの作成ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 タイピング、パワーポイント、書式 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. パワーポイントでアニメーションの設定ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 タイピング、パワーポイント、設定、アニメーションの設定 | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. エクセルで課題にそって文書作成ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 Excel問題集 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. エクセル、ワード、パワーポイントを組み合わせで作成できる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 Word、Excel、パワーポイントの連携、復習 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. エクセル、ワード、パワーポイントを組み合わせで作成できる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 Word、Excel、パワーポイント 実力テスト | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. パワーポイントで課題作成ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 パワーポイント課題作成 | | |
| 第14回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 作成したパワーポイントでプレゼンができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 パワーポイント発表会(テスト) | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. エクセルで速やかに文書作成ができる | 授業資料 コンピューター | 教科書の該当章を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 Excel実力テスト タイピング練習 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-------------|---|---------|-----------------------|---------------|
| 科目名 | 哲学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 15 (1) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担当教員 | 竹島 尚仁 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| <p>哲学の基本的な考え方を概観しつつ、とりわけ倫理的な価値をどのように扱うかという点について、現代社会の出来事と照らし合わせながら、哲学的な思考を身に付けていく。その過程で、現代における哲学的・倫理的課題や歴史上の哲学的・倫理的学説に触れる。これらの学習から、医療者としての倫理意識を高めていく。</p> | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| <p>終講時レポート評価(100%) 提出期限に遅れた場合は減点対象となる</p> | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| <p>教科書は使用しない。必要な資料は配布する。また参考文献を随時紹介する。</p> | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| <p>映画、小説やいろいろな人の生き方や価値観、また現代社会において生じているさまざまな出来事やその背景に関心を持ち、それらについて哲学的・倫理的な洞察を深め、自分自身で物事を判断できる力を身につける。</p> | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| <p>授業内での質問や応答を通じて積極的に授業に参加する。</p> | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1.哲学とはどのような学問か、諸領域にどのような内容があるか理解し倫理学の必要性について述べるができる。 | 授業時配布資料 | 関連資料を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 哲学の諸領域と倫理 倫理とは(1) | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 哲学と倫理の大前提である「自由」がもつ意味を説明できる。 | 授業時配布資料 | 前回授業資料を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 倫理とは(3) 倫理と自由、自由と強制 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1.生命とその価値について述べるができる。 | 授業時配布資料 | 前回授業資料を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 生命とその価値について哲学的・倫理的に考える。 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 人格的生命について自分の考えを述べるができる。 | 授業時配布資料 | 前回授業資料を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 人格とは何か | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 人間にとっての死への恐れについて自分の考えを述べることができる | 授業時配布資料 | 前回授業資料を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 死への恐れ | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|---------|--------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人間にとっての人生に意味について、自分の考えを述べる ことができる | 授業時配布資料 | 前回授業資料を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人生の意味 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. そもそも行為を評価するうえで、どのような視点をもつべきか を述べることができる。 | 授業時配布資料 | 前回授業資料を読んでおく 課題レポート作成 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 行為をどう評価するか——功利主義と義務論を超えて | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 終講試験・レポート | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|---------------------|--|----------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 心理学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 横山 ひとみ | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 人間心理学は、一人ひとりを異なった独自の存在とみなし、自己実現への活動を主眼とする。人間の表面に現れた行動から、内面の心理を推察する方法を駆使することを通して、行動の科学として心理学の基本的な考え方を身に着ける。発達心理学、臨床心理学など人間や自分についての理解を深め、人間に対する幅広い視点を育てる。 1. 心理学を通しての基本的な考え方を身につける 2. 心理学の各領域の特色を理解する 3. 自分を客観的に見つめることができる | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 配布資料 新体系 看護学全書 基礎分野 心理学 メヂカルフレンド社 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 看護の対象はこころをもった人間なので、人間の心理に常に深く関心を持ち、それに関連するメディア情報にも目を向ける | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 予習・復習をし授業に参加しましょう | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を 通じての 到達目標 | 心理学とはどのような学問か考え、看護における必要性を述べる ことができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を 読んでおく | |
| | 各コマに おける 授業予定 | ガイダンス 心理学とは何か、心理学の歴史(行動主義心理学)について | | | |
| 第2回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1.心理学の歴史、研究方法について概略を述べる ことができる。 2. 発達心理学の必要性について 述べる ことができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を 読んでおく | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 心理学の歴史、心理学の研究法、発達心理学について | | | |
| 第3回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1.動機付けと情動に関する理論について知り、看護との 関連について述べる ことができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を 読んでおく | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 発達心理学の続きと、動機付けと情動について | | | |
| 第4回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 情動と性格に関する基本理論について知り、看護との 関連について述べる ことができる | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を 読んでおく | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 情動と性格について | | | |
| 第5回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 知能に関する基本理論について知り、看護との 関連について述べる ことができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を 読んでおく | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 知能について | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|---|----------------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. ストレス理論について知り、看護との関連について述べることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 創造性とストレスについて | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. カウンセリングと心理療法について知り、看護実践への適用について考えを述べることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | カウンセリングと心理療法に関して | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人間の認知(知覚)について知り、看護実践への応用について考えを述べることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 知覚について | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人間の認知(感覚)について知り、看護実践への応用について考えを述べることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感覚について | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人間の認知(記憶)について知り、看護実践への応用について考えを述べることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 記憶について (記憶実験を含む) | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 学習理論の基礎について知り、看護実践への応用について考えることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 学習について | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人間の認知(思考)について知り、看護実践への応用について考えを述べることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 思考について | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 社会心理の基礎理論を知り、看護実践への応用について考えることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 社会の中の人(対人認知、対人関係の発展、対人魅力)について | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 集団心理の基礎理論を知り、看護実践への応用について考えることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 心と社会(他者存在の影響、集団)について 脳と心について | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 脳科学の心理学への貢献について知り、心理学での学びを日々の生活に生かすための考えについて述べることができる。 | 教科書 授業時配布資料 | 教科書の関連単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脳と心の講義、まとめ 試験 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|--------|-----------------|---|-------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 人間関係論 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 小松 弘子 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 心理過程とそれに基づく行動を探究する学問である。実践的な人間関係力の向上のために、「人との関わり」「周囲とのかわり」と成長「人間関係の成り立ち」といった知識的学習をする。支援者である看護師にとってはコミュニケーション技術は重要な課題である。その具体的取組としてアサーティブトレーニングやロールプレイングなど場面設定した演習を取り入れ、他者も自分も尊重し、誠実な態度や正直・素直に自分を表現する力を育成する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 講師資料 発達・社会から見る人間関係 北大路書房 基礎分野 人間関係論 医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 学んだ理論を常日ごろの生活の中で活用するようにこころがけ、自身のあり方を振り返る習慣をつけていきましょう | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 欠席しないよう、体調を整えましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 人間関係論を学ぶ意義について述べることができる 2. 自己認知・対人認知について説明できる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ①人間関係論とは ②自己認知 ③対人認知 について | | | |
| 第2回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1・対人関係成立の条件と葛藤および対処のあり方について説明できる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ①対人関係の成立 ②対人関係の維持と崩壊 ③対人葛藤と対処 ④社会的役割について | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1・対人関係に影響を及ぼす要因とコミュニケーションのあり方について説明できる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ①態度と態度変化 ②説得的コミュニケーション ③攻撃 ④援助 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 集団における人間の心理と行動の特性について説明できる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ①集団の特性 ②集団での課題遂行 ③集団での問題解決と意思決定 ④リーダーシップについて | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. コミュニケーションに関する基礎的理論について説明できる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ①コミュニケーションとは ②対人コミュニケーション ③マスコミュニケーション ④ICTの発達とコミュニケーション | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|-------------|-------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. カウンセリングの基礎的理論とその方法について述べることができる。 | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ①カウンセリング、心理療法の理論とスキル ・支持的精神療法 ・来談者中心療法 ・精神的動的な精神療法 ・カウンセリング演習 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 認知行動療法の基礎的理論と方法について説明ができる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ①行動療法 ②認知療法 ③認知行動療法について | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. コーチングの理論とスキル | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ①コーチングの理論とスキル ・コーチングの定義 ・コーチングの歴史 ・コーチングの原理 ・コーチング演習 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. アサーティブなコミュニケーションのあり方について知り、自分自身の傾向について述べるができる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ①アサーションの理論とスキル ・事例を通して | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. チームにおける人間関係とコミュニケーションのあり方について述べるができる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ①医療におけるチームと看護師の役割 ②チームワークとチームエラー ③チームにおけるコミュニケーションとその予防 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 患者－看護師関係における基礎的知識について述べることができる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ①患者・医療者関係 ②患者・看護師間の相互作用の評価 ③さまざまな看護場面における人間関係 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 臨床での患者の特性を踏まえた人間関係のあり方について知り、自分自身の課題について知ることができる。 | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ・患者を支える人間関係 ・慢性疾患をかかえて生きる患者 ・死に向かう患者を支える人間関係 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 子どもおよび精神に障害を持つ対象との人間関係形成に必要なことについて述べるができる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ①子どもと看護師との関わり ②精神障害をもつ患者と看護師の関わり I. 看護関係論 ・家族という存在 ・現代社会の家族の特徴 ・家族の定義 ・家族の機能 ・家族を理解するための理論 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 家族看護の基本となる人間関係のあり方について説明できる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | ①家族看護の展開 ②さまざまな状況と家族 遺族 ①個人を取り巻く人間関係 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. これまでの学習を振り返り、看護における人間関係に必要なことについて自分の考えを述べるができる | 教科書 授業資料 | 該当単元について教科書を読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 人間関係論の概括 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-------------|--|------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 教育学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 15 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 原 安利 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 人間の生涯発達の特徴から、より良く生きることができるように育成することがねらいである。 生きていく環境や他者との相互作用を学ぶ。また、効果的な学習を学びながら学生自身が効果的にトレーニングできる課題を持ち成果を発表する。学生がプロセスから成果までを発表する演習なども取り入れ、主体的学習の能力を高める。さらに、看護実践に応用させ、発展と新しい視点を獲得できるよう方向づける。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する。 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 子どもの社会力、学力を育てる | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 その授業の内容について教科書の該当単元を読むとともに、メディアの内容で関連のある情報などを収集し考えを深める | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 各授業から得たことと課題(問いかけ)を持ち続けること。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 教育学を学ぶ意義について述べるができる | 教科書 | 該当単元を読んで自分の考えをまとめておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 看護を学ぶにあたって、何故教育学を学必要があるのかを教育と看護の両概念の比較を通して考察する。 | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 現代の特徴と教育をめぐる問題について知り、自分の考えを述べるができる | 教科書 | 該当単元を読んで自分の考えをまとめておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 文化伝達としての教育のあり方から、教育の原理を確認 p.6～23までを班でぶんとんしてまとめる。 教科書だけでなく参考文献も探してB41枚以上にまとめることを指示 | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 1.教育カリキュラムの理論を知り、また自分自身の学びの目的について記述できる | 教科書 | 該当単元を読んで自分の考えをまとめておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 教育カリキュラムの理論。 病院での患者との関わりを踏まえる 課題レポート①この学校に入った理由(800字以上) ②この学校で学ぶ内容(自分で考えて教科を整理) | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 1. カリキュラムの種類を知り、学びのあり方について述べるができる | 教科書 | 該当単元を読んで自分の考えをまとめておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 教科書p.80～ カリキュラム構成3つの分け方を押さえる 「教科書で教える」と「教科書を教える」の違いと意義についても確認 教師の意図せざる教育上の作用としてのヒドゥンカリキュラムについても触れる | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 1. 教材のあり方について知り、健康教育について適用を述べるができる | 教科書 | 該当単元を読んで自分の考えをまとめておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 教材解釈と教師にとって大切なことについて説明。「共に」という視点を持つことは 教師としても生徒同士のつながりとしても肝要である。 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|------|----------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 1. 子供の発達段階と学習との関連を知り、看護場面への適用について述べるができる | 教科書 | 該当単元を読んで自分の考えをまとめておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 子供理解と生活指導において、指導は相手である子供の理解の視点を持たなければ、単純に押柄な営みになることを確認 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 1. 教育的対話について理解し、看護への適用について述べるができる | 教科書 | 該当単元を読んで自分の考えをまとめておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 教育的対話の概念について説明、患者を受身で終わらせない看護のあり方の考察を行った。 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 1. これまで学んだ知識を看護に適用するあり方について記述できる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 終講試験・レポート | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-------------|----------------------------------|---------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 倫理学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 鈴木 亮三 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 倫理学とは看護実践行動の基準となる規範を示す学問領域である。生命倫理、医療倫理、看護倫理の歴史的経緯を踏まえ、看護倫理の基本理論や倫理的概念を学ぶ。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 授業資料 参考資料は随時紹介 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 講義に関連する報道・記事などに関心を持ち発展的理解に努めること。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 看護師は医療・福祉に欠かせないプロフェッショナルです。プロには、高い倫理観と高度な知識が必要です。自ら考え倫理的に判断でき看護師になるよう意欲を持って講義に参加してください。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 1. 倫理学を学ぶ意義について述べるができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 倫理学とは何か | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 1. 倫理学における生命倫理が扱う領域について述べるができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 生命倫理学の位置づけ | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 1. 人間にとって健康の意味について倫理学視点から述べるができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 健康の概念 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 1. 人間にとって病気の意味について倫理学視点から述べるができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 病気の概念 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 1. 生殖医療における倫理的課題について、述べるができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 生殖技術(1) | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|---------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 1. 生殖医療における倫理的課題について、述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 生殖技術(2) | | |
| 第7回 | 講義形式 | 1. 先進技術(臓器移植)における倫理的課題について、述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 臓器移植 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 1. 先進技術(脳死)における倫理的課題について述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 脳死 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 1. 生殖技術(出生前診断)における倫理的課題について述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 出生前診断 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 1. 生殖技術(人工妊娠中絶)における倫理的課題について述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 人口妊娠中絶 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 1. 死(尊厳死)における倫理的課題について述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 尊厳死 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 1. 死(安楽死)における倫理的課題について述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 安楽死 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 1. 死(老衰死)における倫理的課題について述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | 老衰 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 1. 死(ターミナルケア)における倫理的課題について述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | ターミナルケア | | |
| 第15回 | 講義形式 | 1. インフォームドコンセントと倫理的課題について述べる ことができる | 授業時配布資料 | 授業資料を読み直しておく |
| | 各コマにおける授業予定 | インフォームドコンセント | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|--------|-----------------|--|----------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 家族と社会学 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 杉井 将俊 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 人間の生活において、家族はかけがえのない存在であるが、同時に、育児・離婚・介護等の多くの問題が存在し、その状況は多様なものとなっている。そして、医療や福祉の充実により、看護職の役割も拡大する中では、かんじやのみならず、その家族の支援もとても重要となる。本講義では、家族に関する基本概念から、事例を用いての考察等により、患者と家族支援について理解し、関わり方を学んでいく。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 出席状況・受講態度・演習への取り組み方・試験にて総合的に評価する | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 別巻 家族看護学 系統看護学講座 基礎分野 社会学 その他必要に応じて講義内で紹介 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 予習・復習をおこなうこと。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 家族をめぐる問題について各メディアに興味・関心を持ち情報を得ておくこと。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.看護において家族と社会学について学ぶ意義について述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション 家族社会学概論Ⅰ >家族について | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.家族の機能について理解し、看護場面への適用について考えを述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 家族社会学概論 >家族の役割と機能、考え方 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 家族の発達過程およびシステムとしての家族を理解し、看護場面への適用について考える事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 家族社会学概論Ⅲ >家族の発達過程とシステム理論 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 多様な家族像について理解し、看護場面への適用について考える事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 多種多様な家族とその課題について >現代の家族像とそれぞれの考え方 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 家族看護のためのアセスメントの視点について説明できる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 患者と家族に関わる社会資源について >家族の状況とライフステージで捉える 家族へのアセスメントⅠ >さまざまな視点と情報収集、記録整備 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|----------------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 家族看護のためのかかわり方について説明できる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 家族へのアセスメントⅡ 患者、家族との関わり方と支援 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 家族看護における他職種連携について述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 他(多)職種による支援について >各職種の役割、連携と看護職 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 医療現場における家族看護で大切なことについて自分自身の考えを述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 医療現場における家族と看護・支援Ⅰ >患者、家族の心身状況と関わり方 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 医療現場における家族看護のあり方について事例を通して説明できる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 医療現場における家族と看護・支援Ⅱ >看護職の関わり方と支援、事例検討 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 福祉領域における家族看護について考え、自分の考えを述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 福祉領域における家族と看護・支援Ⅰ 本人、家族の心身状況と関わり | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 医療現場における家族看護のあり方について事例を通して説明できる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 医療現場における家族と看護・支援Ⅱ >看護職の関わり方と支援、事例検討 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 福祉サービスと家族看護について理解し、看護場面への適用について述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 福祉サービス利用者とその家族Ⅰ >介護保険制度、障害福祉サービス利用者に医療が必要な場合について >疾患、障害等を踏まえた支援 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 福祉サービスと家族看護について理解し、看護場面への適用について述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 福祉サービス利用者とその家族Ⅱ >多面的な問題と関わり方、事例検討 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. これまでの学習内容を振り返り、自分自身の家族観を述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 総括講義① | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. これまでの学習内容を振り返り、自分自身の家族観を述べる事ができる | 教科書 授業時配布資料 | 該当単元について読んでおく |
| | 各コマにおける授業予定 | 総括講義② | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|------------|-----------------|--|---------|-------------------------------------|---------------|
| 科 目 名 | コミュニケーション学 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 侍留慶子 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの概念・理論を理解し、看護師として医療の現場で効果的かつ適切なコミュニケーション行動を展開できるよう、演習(グループディスカッション・ロールプレイング)を通じて、コミュニケーションスキルを身につける。 ・医療専門職の一員として、多職種との協働・連携を図るためのコミュニケーションマナーの重要性を学び、社会人に必要とされる基礎能力を身につける。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 演習、出席ならびに課題提出状況、実技・筆記試験で総合的に評価 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 授業時配布資料 参考図書は随時紹介 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 学習内容を日常生活の中で活用し、自己洞察を深めつつ技術を高めていく | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 配布資料を事前に予習し講義に参加すること | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. コミュニケーションの基本知識について説明できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | コミュニケーションの概論 コミュニケーションの基本概念 コミュニケーション能力向上のための基本知識 | | | |
| 第2回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 非言語コミュニケーションについて説明できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | コミュニケーションの基本 非言語コミュニケーションについて 第一印象の3要素 | | | |
| 第3回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. コミュニケーションの基本について演習を通して説明できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | コミュニケーションの基本 非言語、言語コミュニケーション(トレーニング) | | | |
| 第4回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 相手に伝わるコミュニケーション技術について実施できる 2. 正しい言葉使いの必要性とその例について説明できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 伝わる伝え方、具体的な表現方法 正しい言葉使い 敬語の使い方、演習 | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. アサーティブなコミュニケーションのあり方についてシュミレーションできる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 相手に配慮した伝え方(アサーティブコミュニケーション) グループワークでの演習 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|---------|---------------------------------|
| 第6回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1.ラポール形成に必要なスキルについて説明できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | ラポール(信頼関係)形成のスキル 肯定的表現方法 | | |
| 第7回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. チームワーク力を高めるコミュニケーションについて説明できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | 自己盲点と対応策 チームビルディングとは コンセンサス(合意形成)の演習 | | |
| 第8回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. アンガーコントロールの基本について説明できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | 感情のコントロール(アンガーマネジメント) 怒りの感情に振り回されないための感情コントロール法 | | |
| 第9回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. ABC理論について説明できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | 価値観の違いを知る(グループワーク) 多様性を認めるための思考法 思考と感情(ABC理論) | | |
| 第10回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 職場におけるコミュニケーションにおいて重要な点について述べることできる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | 職場におけるコミュニケーションマナー 職場における人間関係、職場のマナー、ビジネスコミュニケーション(報連相) | | |
| 第11回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. アクティブリスニングの基本について説明できる 2. アクティブに相手の話を聴く技術を実践できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | 信頼される聴き方(アクティブリスニング) 信頼とは、聴き方の3原則 リスニングスキルの実践(ペアワーク) | | |
| 第12回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 文字コミュニケーションを実践的に活用できる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | ビジネスコミュニケーションツールの知識 ビジネス文書の基本ルール ビジネスメール(eメール) | | |
| 第13回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 自己開示のために必要なことについて述べることできる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | 人間関係構築のための自己開示 自己開示のための自己分析、自己理解、ジョハリの窓、エゴグラム | | |
| 第14回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 相手にわかりやすいプレゼンテーションができる | 授業時配布資料 | 授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる |
| | 各コマにおける授業予定 | プレゼンテーション 1分間スピーチ(自分の強み、目標とする看護師像について) | | |
| 第15回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 正しい日本語を用いて、レポート作成ができる | 授業時配布資料 | レポート作成 |
| | 各コマにおける授業予定 | 正しい日本語の知識 評価課題レポート作成(総まとめ) | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|------------|---------------------|-------------------------------------|--|---------------------------------|---------------|
| 科 目 名 | メディカル英語 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 松下修 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 国際化の視点に立ち、医療現場での共通のコミュニケーションとして、英語での会話を求められることが多々ある。医学英語、看護英語の理解を中心に学習することで日常的に医療の現場で英語が理解できる。日常のコミュニケーション方法、医療現場で必要となる英語力を身につけるための学習とする。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 予習・復習を行うこと | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 映画やインターネットなどで、日常的に英語に触れる機会を作りましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 自己紹介を英語で伝えることができる | Nursing English in Action 株式会 社国際教育社 | 該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 自己紹介 異文化ロールプレイング 授業の目的、ルールの説明 | | | |
| 第2回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 英語で挨拶ができる | Nursing English in Action 株式会 社国際教育社 | 該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 英語で挨拶ができる 道順説明 医療英語、診療科の名称 | | | |
| 第3回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 英語で道順説明ができる 2. 英語で症状を聞くことができる | Nursing English in Action 株式会 社国際教育社 | 該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 道順説明 症状を尋ねる、伝える(医療用語) | | | |
| 第4回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 英語で症状伝えたり、聞くことができる | Nursing English in Action 株式会 社国際教育社 | 該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 症状を尋ねる、伝えるの練習問題 ペアワーク(会話練習) | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 英語で問診表埋めることができる | Nursing English in Action 株式会 社国際教育社 | 該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 症状を尋ねる(復習) 問診表の言葉(会話練習) | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-----------------------|---|--|-------------------------------------|-------------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 問診表を見ないで、英語で問診ができる | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | 症状を尋ねる、訴える会話練習 問診表の言葉と表現を覚える | | | |
| 第7回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 英語で問診ができる | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | 問診表の言葉と表現を覚える 復習プリント、確認テスト | | | |
| 第8回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. ADL介助に関する英語を話すことができる | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | 発音記号 ADL介助で使われる用具・備品 | | | |
| 第9回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. ADL介助に関する英語を話すことができる 2. 臓器の名称を発音できる | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | ADLの動作、介助が必要かどうかの確認をする表現 臓器の名称 | | | |
| 第10回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 臓器の名称を英語で言える 2. バイタルサインに関する単語が読める | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | 臓器の名称復習 バイタルサインの語弊、表現 | | | |
| 第11回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. バイタルサインの際の会話が英語でできる | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | バイタルサインの表現、会話練習 確認テスト | | | |
| 第12回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 薬の種類、名称を英語で言える | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | 薬の種類、名称について テストについて | | | |
| 第13回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 薬の飲み方、使い方を英語で読める | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | 薬の種類、名称について 薬の飲み方、使い方の指示① | | | |
| 第14回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 医療場面でよくある場面の会話ができる | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | スピーキングテスト 復習プリント | | | |
| 第15回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 薬の飲み方、使い方を英語で読める | | Nursing English in Action 株式会社国際教育社 | 該当単元のテキストの内容について予習・復習する |
| | 各コマにおける授業予定 | 薬の飲み方、使い方の指示② | | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|-----------------------|---|-------------------|----------------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 健康スポーツ学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 体育館・PCルーム |
| 担 当 教 員 | 内海 翔太・橋本 秀樹 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 心身の健やかな成長をねらうと共に、自己の体調・健康管理につなげられる知識・技術を学ぶ。授業は、学生の体力づくりとエネルギーの発散につながる内容とし、また生活習慣病の改善や予防の1つとしての運動療法の効果なども学び、看護実践につなげる。 また、レクリエーション要素も取り入れ、仕事・学習など日常生活の中での肉体的・精神的疲労を癒し、元気を回復するための効果を学び、対人援助での人間関係を築く方法として対応する。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 参考図書は随時紹介 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 基礎体力向上のため、普段より生活習慣を整えておくこと。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 積極的に参加すること。怪我の無いよう注意すること。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 健康とスポーツとの関連について考え、スポーツ競技が実践できる | バスケット、卓球用品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる | |
| | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション 様々な丘隅(バスケットボール、卓球など) | | | |
| 第2回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる | バレーボール用品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる | |
| | 各コマにおける授業予定 | バレーボール | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. チーム、ペア、シングルでの競技ができる | バスケット、卓球、バトミントン用品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる | |
| | 各コマにおける授業予定 | バスケットボール、卓球、バトミントン | | | |
| 第4回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる | バスケットボール用品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる | |
| | 各コマにおける授業予定 | バスケットボール | | | |
| 第5回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 1. 多人数でのレクリエーションのあり方について考え、自分の役割などの振り返りが述べられる | 競技に必要な物品 | スポーツディの事前準備など | |
| | 各コマにおける授業予定 | スポーツデイ | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|-----------------|----------------------------------|
| 第6回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 多人数でのレクリエーションのあり方について考え、自分の役割などの振り返りが述べられる | 競技に必要な物品 | スポーツデイの事前準備など |
| | 各コマにおける授業予定 | スポーツデイ | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. レクリエーションに関する基礎知識について説明できる | 授業時配布資料 | 授業時資料の復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 講義 レクリエーションとは(歴史、役割、計画など) | | |
| 第8回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 室内でのスポーツができる | バトミントン、卓球に必要な物品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | バトミントン、卓球 | | |
| 第9回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 室内でのスポーツができる | バトミントン、卓球に必要な物品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | バトミントン、卓球 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 健康の概念について理解し、自分の言葉で説明できる | 授業時配布資料 | 授業時資料の復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 講義 健康の概念① | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 健康とスポーツの関連について理解し、看護への適用について述べることができる | 授業時配布資料 | 授業時資料の復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 講義 健康の概念② | | |
| 第12回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる | バスケット、バレーボール用品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | バスケットボール、バレーボール | | |
| 第13回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 室内でのスポーツができる | 卓球、バトミントン用品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | バトミントン、卓球 | | |
| 第14回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 競技の意義を理解し、実践できる | バスケット、バスケット用品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | バトミントン、バスケットボール(テスト:実技) | | |
| 第15回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 1. 競技の意義を理解し、実践できる | 卓球、バレーボール用品 | 実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | バレー、卓球(テスト:実技) | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|---------------------|---|--------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 生体機能学 I | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 原 太久茂 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 看護の対象である人間についての基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 生体機能学 I では、呼吸・循環器・血液について学ぶ。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 予習・復習を行きましょう | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 授業で分からないことがあれば、そのままにせず教員・友達に質問し理解しましょう。 | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第 1 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1人体の見方、区分について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 解剖生理学のための基礎知識 形から見た人体:体表から触知する人体の構造、人体の構造 と区分、人体の部位と器官、方向と位置を示す用語 | | | |
| 第 2 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 細胞と人体の関連について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 解剖生理学のための基礎知識 素材から見た人体 人体とは、細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの 生成、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、分科した | | | |
| 第 3 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 生命維持システムについて説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 解剖生理学のための基礎知識 機能から見た人体 生命維持システム、運動・調整システム | | | |
| 第 4 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 体液とホメオスタシスについて説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 解剖生理学のための基礎知識 体液とホメオスタシス | | | |
| 第 5 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 1. 呼吸器の構造について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 呼吸器の構造と機能(呼吸器の構造) | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--|------|-------------------|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 呼吸器の機能面について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 呼吸器の構造と機能(呼吸:内呼吸・外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸器量、ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流、呼吸運動の調整、呼吸器系の病態整理) | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液の成分と機能について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液の組織と機能(血液の組成と機能、赤血球、白血球) | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血球成分の機能について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液の組織と機能(血小板、血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液凝固、血液型) | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液循環と調整について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液の循環とその調整(心臓の構造、心臓の拍出機能) | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液の抹消循環について説明できる。 | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液の循環とその調整(抹消循環系の構造) | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 心臓血管系の構造について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液の循環とその調整(血管の構造、肺循環、体循環) | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血圧の調整について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液の循環の調整(血圧、血圧の循環) | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液量の調整について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液の循環の調整(血圧・血液量の調節) | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. リンパとリンパ管について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液の循環の調整(循環器系の病態整理) リンパとリンパ管 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 呼吸器・循環器・血液の関係について身体を調整するメカニズムを説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 総復習 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-------------|---|--------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 生体機能学Ⅱ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 原 太久茂 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| <p>人体の構造と機能、各器官の役割を学び、これを基盤に診断と患者の治療・看護は成り立っている。この教科では、消化器・代謝内分泌、について栄養の消化吸収、排泄のメカニズムに関する器官の形態と構造、その機能と役割を学ぶ。</p> | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 教科書の該当単元を読んでおくとともに課題(問題)を行っておく | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 予習・復習をおこなうこと | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 消化器の構造と機能について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 栄養の消化と吸収 口・咽頭・食道の構造と機能 口の構造と機能 咽頭と食道の構造と機能 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 消化器の構造と機能について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 腹部消化管の構造と機能 胃の構造、胃の機能 胃の周辺の間膜 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 消化器の構造と機能について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 栄養素の消化と吸収 小腸の構造 小腸の機能 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 消化器の構造と機能について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 大腸の構造、大腸の機能 腹膜と腸間膜 腹膜と内臓の位置関係 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 消化器の構造と機能について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 肝臓の構造 肝臓の働き | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|------|-----------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 消化器の構造と機能について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 膵臓・胆嚢の構造と機能 膵臓の構造と膵液 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 授業内容を深め消化器について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ・復習 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人体の骨格の構造について説明できる。 | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 人体の骨格 骨の形態と構造 骨の組織と組成 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 骨格筋について説明ができる。 | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 骨の連結 骨格筋 体幹の骨格と筋 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 体幹の骨格と筋について説明ができる。 | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脊柱・胸郭 背部・胸部・腹部の筋 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 上肢の骨格と筋について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 上肢帯と骨盤・自由上肢の骨格 上肢帯・上腕の筋群 前腕・手の筋 上肢の運動 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 下肢の骨格と筋について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 下肢帯と骨盤・自由下肢の骨格 下肢帯・大腿の筋群 下腿・足の筋 下肢の運動 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 頭頸部の骨格と筋 | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 神経頭蓋 内蔵頭蓋 頭部の筋 頸部の筋 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 筋の収縮について述べることができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 骨格筋の収縮機構 骨格筋収縮の種類と特性 不随意筋の収縮の特徴 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 授業内容を深め運動器について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | まとめ・復習 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|----------------|---|--------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 生体機能学Ⅲ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 15 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 森 泰宏 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 看護の対象である人間についての基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 この教科では、腎泌尿器・内分泌について学ぶ。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 予習・復習を行うこと | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第 1 回 | 講義 形式 | 授業を 通じての 到達目標 腎臓の構造と機能について理解する | テキスト | (課題) | |
| | | 各コマに おける 授業予定 ・腎臓の構造 ・腎臓の働き ・尿の生成(尿が生成される過程) | | | |
| 第 2 回 | 講義 形式 | 授業を 通じての 到達目標 血液成分の調整について説明ができる | テキスト | (課題) | |
| | | 各コマに おける 授業予定 水と電解質平衡、酸塩基平衡 | | | |
| 第 3 回 | 講義 形式 | 授業を 通じての 到達目標 血液成分の調整について説明ができる | テキスト | (課題) | |
| | | 各コマに おける 授業予定 水と電解質平衡、酸塩基平衡 | | | |
| 第 4 回 | 講義 演習 形式 | 授業を 通じての 到達目標 排尿のしくみについて説明ができる | テキスト | (課題) | |
| | | 各コマに おける 授業予定 ・尿管・膀胱・尿道の構造と機能 ・蓄尿の機構 ・排尿の機構 ・骨盤底筋群の働き | | | |
| 第 5 回 | 演習 形式 | 授業を 通じての 到達目標 内分泌とは・脳にあるホルモン分泌器官と各ホルモンについて 説明ができる | テキスト | (課題) | |
| | | 各コマに おける 授業予定 ・ホルモンの概念(内分泌と外分泌) ・フィードバック機序 ・ホルモンの科学的性質と作用機序 ・視床下部・下垂体・松果体 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|------|-------------------|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 甲状腺・上皮小体・副腎ホルモンについて説明ができる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | ・甲状腺・上皮小体(副甲状腺) ・副腎皮質・副腎髄質 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | その他ホルモン器官について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | ・膵臓の働き(血糖の調整) ・その他(消化管・腎臓・胸腺・心臓・性腺) | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 終講試験 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|--------|-----------------|--|-----------|-----------------------|
| 科 目 名 | 生体機能学Ⅳ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 原 太久茂 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 看護の対象である人間についての基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 生体機能学Ⅳでは、脳神経・感覚器・免疫・生殖器について学ぶ。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 系統看護学講座 専門基礎分野 1 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野7 脳・神経 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 教科書の該当単元を読んでおくとともに課題(問題)を行っておく | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 予習・復習をおこなうこと | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 神経系の構造と機能について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 神経細胞と支持細胞 ニューロン・シナプスでの興奮と伝達 神経系の構造 | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 脊髄と脳について説明ができる① | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脊髄・脳の構造と機能 | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 脊髄と脳について説明ができる② | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脊髄・脳の構造と機能 | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 脊髄神経と脳神経、脳の高次機能について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能 脳の高次機能 | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 運動機能と感覚機能について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 運動ニューロン・下行伝導路 感覚の種類・性質 体性感覚・皮膚の受容器の種類 上行伝導路 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--------------------------------------|------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 眼の構造と視覚について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 眼球の構造 眼球付属器 視覚 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 味覚と嗅覚、痛みについて説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚 痛みの分類 疼痛の発生機序 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 皮膚の構造と機能について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 皮膚の組織構造 皮膚の付属器 皮膚の血管と神経 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 生体防御機構について説明ができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 非特異的防御機構 特異的防御機構(免疫) 生体防御の関連臓器 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 代謝と運動について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 代謝とは 運動とエネルギー | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 体温とその調整 | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 熱の出納 体温の分布と測定 体温調整・発熱・高体温と低体温 | | |
| 第12回 | | 授業を通じての到達目標 | 男性生殖器の解剖生理について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 男性生殖器 | | |
| 第13回 | | 授業を通じての到達目標 | 女性生殖器の解剖生理について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 女性生殖器 | | |
| 第14回 | | 授業を通じての到達目標 | 発生について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 生殖細胞と受精 初期発生と着床 胎児の血液循環 | | |
| 第15回 | | 授業を通じての到達目標 | 成長と老化について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 小児期の成長 老化 総まとめ | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-------------|--------------------------|---------------------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 生化学 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 中西 徹 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 生命とは、生体の構成している様々な分子が調和をもって働いている姿である。そして、病気には特有の生化学的異常という側面があることが少なくない。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解することは、看護にとって大切なことである。人体の構成している物質がどのような化合物で成り立っているのか、それらの化合物がどのようにつくられ、壊されて、生体の恒常性が保たれているかということを読んでいく。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 筆記試験で評価する | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門基礎分野 2 生化学 随時参考文献を指定します | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 配布資料を事前に読んでおくこと。練習問題に取り組むこと | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 栄養学につながる基礎となる分野です。必ず、復習し理解してください。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 1.生化学を学び意義について述べるができる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 生化学を学ぶための基礎知識 糖質 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 1、脂質の働きと代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 脂質 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 1、たんぱく質の働きと代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | たんぱく質・核酸 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 1.水分と無視気質の働きと代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 水と無機質 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 1. 血液と尿に関する代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 血液と尿 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--------------------------|---------------------------|-----------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. ホルモンの働きについて説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | ホルモン | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 酵素の特性と働きについて説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | ホルモン・酵素 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 酵素・ビタミンの働きについて説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 酵素・ビタミン | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 糖質の代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 糖質の代謝① | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 糖質の代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 糖質の代謝② | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 脂質の代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脂質の代謝 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. たんぱく質の代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | たんぱく質の代謝 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 遺伝情報について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 核酸の合成と代謝遺伝情報 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 遺伝情報、先天性代謝異常について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 遺伝情報・先天性代謝異常 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. ポルフィリン代謝について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学 | 教科書の該当単元を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | ポルフィリン代謝 代謝の異常 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|----------------|-----------------|--|-------------------------------|-------------------|---------------|
| 科 目 名 | 病態総論(病理学) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 窪田 淳一 窪田 康浩 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 生体機能学で学んだ「人体の構造と機能」に、何が生じて患者が苦しんでいるのか、「疾病の成り立ち」を理會する基礎である。科学的根拠に基づいた実践できる基礎的能力の根幹を成す科目である。病態総論では、用語の理解、そして構造の異常、機能の異常を学ぶ。症候論と各疾患の症状・診断・治療を学ぶために、まず臓器や細胞の変化を理解する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 配布資料を事前に、予習し練習問題で復習を行うこと。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 病態をイメージしながら理解してください。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 細胞組織の障害と修復について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護と病理学～第2章 細胞組織の障害と修復 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 循環障害について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環障害(第3章) | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 炎症と免疫について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 炎症と免疫 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 移植と再生医療について自分の考えを述べる事ができる 2. 感染と宿主の防御機能について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 移植と再生医療 感染と宿主の防護機能 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1.代謝異常、脂質異常について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 | 教科書の該当単元を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感染症: 主な病原体と感染症(第5章) 代謝異常、脂質異常症(第6章) | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|---------------------|--|-----------------------------------|--------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 1. たんぱく質代謝、脂質代謝の異常について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | たんぱく質代謝障害(第6章)～ 代謝障害、脂質異常症(第8章) | | |
| 第7回 | 講義形式 | 1. 先天異常と遺伝子異常について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 先天異常と遺伝子異常 腫瘍(第9章) | | |
| 第8回 | 講義形式 | 1. 腫瘍の発生、細胞の特性について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 腫瘍(第9章) | | |
| 第9回 | 講義形式 | 1. 循環器の疾患とはどのような病態か説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 循環器系の疾患(第10章) | | |
| 第10回 | 講義形式 | 1. 血液・造血器系の疾患とはどのような病態か説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 血液・造血器系の疾患(第11章) | | |
| 第11回 | 講義形式 | 1. 呼吸器系の疾患とはどのような病態か説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 呼吸器系の疾患(第12章)① | | |
| 第12回 | 講義形式 | 1. 呼吸器系の疾患とはどのような病態か説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 消化器系の疾患(第13章)② | | |
| 第13回 | 講義形式 | 1. 腎・泌尿器・生殖器系の疾患はどのような病態か説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 腎・泌尿器・生殖器系の疾患(第14章) | | |
| 第14回 | 講義形式 | 1. 内分泌系の疾患とはどのような病態か説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 内分泌系の疾患(第15章) | | |
| 第15回 | 講義形式 | 脳神経・感覚器系の疾患はどのような病態か説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院 | 教科書の該当単元を 読んでおく |
| | 各コマに おける 授業予定 | 脳・神経・筋肉系の疾患(第16章) 骨・関節系の疾患(第17章) 眼・耳・皮膚の疾患(第18章) | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|------------------|---|--------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 疾病論 I (呼吸・循環・血液) | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 45 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 原 太久茂 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| <p>何が原因で病気となり、どのように進行していくのか、結果どのような状態に体になるのか追求していく科目である。病気の際に起こっている体の形態の微細の変化や目に見える変化、そしてそのことで起こってくる機能の異常を明らかにすることによって、病気の本質を知ることができる。健康問題を抱えている患者に生じている様々な人間的な変化(反応)を看護するわけであるから病気に対応できる必要がある。病気の本質を知ることが病気を理解することにつながるため重要である。病理解の基礎をつくるために学ぶ。</p> | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| <p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器、3循環器、4血液・造血機 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野4 病理学 医学書院</p> | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 呼吸機能障害の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 呼吸機能障害① 症状とその病態生理および処置① | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 呼吸機能障害の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 呼吸機能障害② 症状とその病態生理および処置② | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 呼吸機能障害の病態と検査について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 呼吸機能障害③ 検査 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 感染症の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 呼吸機能障害④ 感染症(症状・検査・診断基準・治療) | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 間質性肺炎、呼吸不全の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 呼吸機能障害⑤ 間質性肺炎、呼吸不全(症状・検査・診断基準・治療) | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 呼吸機能障害⑥ 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、(症状・検査・診断基準・治療) | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肺循環障害の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 呼吸機能障害⑦ 肺循環障害(肺梗塞、肺塞栓症)(症状・検査・診断基準・治療) | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肺腫瘍の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 呼吸機能障害⑧ 肺腫瘍(癌、中皮腫)(症状・検査・診断基準・治療) | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 心不全の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環機能障害① 心不全の病態・検査・治療 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 高血圧の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環機能障害② 高血圧の病態・検査・治療 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 虚血性心疾患の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環機能障害③ 虚血性心疾患(病態・検査・治療)① | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 不整脈害の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環機能障害④ 不整脈の病態・検査・治療 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 弁膜症の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環機能障害⑤ 弁膜症の病態・検査・治療 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 心筋症の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環機能障害⑥ 心筋症(心臓移植)の病態・検査・治療 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 動脈系疾患の病態と検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環機能障害⑦ 動脈系疾患(大動脈瘤・大動脈解離・動脈の閉塞性疾患)の病態・検査・治療 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|------|-------------------|
| 第16回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液・造血器疾患(白血病、血友病)の疫学、症状、検査、治療を述べることができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液・造血器系の疾患 主要疾患 白血病 血友病 | | |
| 第17回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液・造血器疾患(白血病、血友病)の疫学、症状、検査、治療を述べることができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 血液・造血器系の疾患 主要疾患 白血病 血友病 | | |
| 第18回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液・造血器疾患(DIC、貧血、悪性リンパ腫)の疫学、症状、検査、治療を述べることができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | DIC 貧血 悪性リンパ腫 | | |
| 第19回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液・造血器疾患(多発性骨髄腫、ACD)の疫学、症状、検査、治療を述べることができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 多発性骨髄腫 ACD | | |
| 第20回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液・造血器系の主要症状、検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 主要症状 貧血、発熱、リンパ節腫脹・脾腫、出血傾向 検査・診断と治療 | | |
| 第21回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 血液・造血器疾患の合併症について説明をする | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 合併症 予後 | | |
| 第22回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 呼吸器・循環器・血液疾患について理解を深めることができる | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 総復習 | | |
| 第23回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | | テキスト | (課題) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 終講試験 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|---------------------|--|--------|-------------------|---------------|
| 科 目 名 | 疾病論Ⅱ(消化器・代謝内分泌・腎泌尿) | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 塩路康信 森泰宏 佐藤通洋 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 0 健康問題を抱える患者の看護を展開するには疾患の理解が不可欠である。人間の各臓器に身体的・精神的な障害がおこった場合に、その患者がいかなる状態におかれたかを理解し、患者のニーズを満たすため看護の役割について系統立てて学習する。ここでは、既習の生体機能学と連動させ、消化器・内分泌・代謝・腎泌尿器官について疾患の成因と病態生理、検査・治療について学ぶ。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野6 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野8 腎・泌尿器 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 消化・吸収機能障害を起こす疾患について説明できる① | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 消化・吸収機能障害 消化管の疾患(消化管の炎症、潰瘍・腫瘍) 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 消化・吸収機能障害を起こす疾患について説明できる② | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 主要疾患:食道静脈瘤、胃十二指腸潰瘍 肝機能障害(ウイルス性肝炎、肝硬変) 膵炎、腸管出血性大腸菌感染症、潰瘍性大腸炎 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 消化・吸収機能障害を起こす疾患の症状について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 主要症状 咀嚼・嚥下障害・吐血・下血 胃痛・腹痛・嘔気・嘔吐・イレウス 便秘・下痢・腹水・肝性脳症 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 消化・吸収機能障害を起こす疾患の検査・治療について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 検査・治療:直腸診、消化管内視鏡、造影検査 インターフェロン療法、肝生検、肝動脈塞栓症 中心静脈栄養法、胆汁瘻ドレナージ | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 消化器系疾患の手術療法について説明できる | テキスト | (課題) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 手術療法:腹腔鏡下での手術、胆嚢摘出術、食道再建術 胃切除術、腸切除術、肝切除術、膵切除術 合併症と予後 | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 栄養バランスの不均衡による疾患について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 栄養バランスの不均衡による疾患 主要疾患: 糖尿病、メタボリックシンドローム、肥満 脂質異常症(高脂血症)、高尿酸血症、痛風 必須栄養素とエネルギー不足の疾患 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 血糖異常の病態、検査、治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 主要症状 高血糖 低血糖 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 糖尿病の検査、治療について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 検査: 糖代謝の検査 治療: 経口糖尿病薬、インスリン療法、食事療法、運動療法 合併症と予後 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 内分泌疾患について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 内分泌系の疾患 主要疾患: 甲状腺機能障害(亢進、低下) バセドウ病、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 内分泌・代謝系疾患の主要症状について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 主要症状: 口渇、多尿、眼球突出、甲状腺腫、倦怠感、発汗過多 検査・治療・手術療法: 血液検査、薬物療法、ホルモン療法 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 腎臓・泌尿器系の疾患について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 腎・泌尿器・排泄の機能障害 腎泌尿器系の疾患 腎泌尿器の炎症・腫瘍・通過障害 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 腎不全の検査・治療・合併症について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 腎不全 主要症状、検査・治療、合併症と予後 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 排泄障害について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 排泄機能障害、男性生殖器の疾患 主要症状、検査・治療、合併症と予後 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 水・電解質の異常、その症状について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 体液の調節障害: 水と電解質・酸塩基平衡の異常 主要疾患: 腎炎、ネフローゼ症候群、結石・腎不全、前立腺肥大症 主要症状: 浮腫、蛋白尿、血尿、排尿障害、疼痛 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 腎不全について説明できる | テキスト | (課題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 検査: 腎生検、尿道造影 治療: 透析療法(血液・腹膜)、腎移植、碎石術、食事・安静・薬物療法 合併症と予後 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|---------------|-----------------|---|--|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 疾病論Ⅲ(脳神経・運動器) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 佐藤通洋 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 脳神経の領域での疾患では、脳血管障害や難病について学ぶ。骨・筋運動領域での疾患では骨折・椎間板ヘルニア・リウマチ・脊髄損傷などによる運動障害や機能障害を学ぶ。 | | | | | | |
| 演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統看護学講座 専門分野Ⅰ解剖生理学 専門基礎分野4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 専門分野10 成人看護学 運動器 医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 生体機能学で学んだ知識と病態を関連づけて理解してください。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1脳神経系について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 | 教科書で予習する | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脳腫瘍 1 疾病の概念 ①転移性脳腫瘍 ②原発性脳腫瘍 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1脳神経系について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 | 教科書・参考書で予習・復習する | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 2 検査と治療 CT・MRI 手術・ガンマーナイフ | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 2 高血圧性脳内出血について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 | 教科書・参考書で予習・復習する | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 1. 疾病の概念 ①発生機序 ②分類 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 2 高血圧性脳内出血について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 | 教科書・参考書で予習・復習する | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 2. 診断と治療 ①症状—高血圧・片麻痺・血腫増大 ②検査と治療 開頭血腫除去・吸引術 1)脳室ドレナージを行う 2)頭蓋内圧コントロール | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | くも膜下出血について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 | 教科書・参考書で予習・復習する | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 1. 疾病の概念 ①発生機序 ②分類 2. 診断と治療 1)症状—頭痛 2)検査と治療—血管撮影検査・腰椎 解頭ネッククリッピング術、コイル塞栓術 正常水頭圧—腹腔シャント術 | | | |

| 授業の方法 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-----------------------|--|--|
| 第6回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | パーキンソン病について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | ①疾病の概念 1)病理 2. 診断と治療 1)症状—四大症状(振戦・筋萎縮・寡動 無動・姿勢反射障害) 2)検査と診断 MIBG 心筋シンチグラフィ 3)治療 薬物療法 | |
| 第7回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | アルツハイマー病について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 疾病の概念 1) 定義 2)発生の機序 | |
| 第8回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | アルツハイマー病について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 2. 診断と治療1)臨床症状—中核症状、周辺症状 2)診断基準と検査—MRI、脳血流シンチグラフィ 3)治療—薬物療法、非薬物療法 | |
| 第9回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | Ⅱ、骨筋肉系(骨粗鬆症)について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 骨粗鬆症 ①疾病の概念 1)骨粗鬆症とは 2)分類 3)病態 (1)脆弱性骨折 (2)骨密度 2 診断と治療 1)診断 2)治療 | |
| 第10回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | Ⅱ、骨筋肉系(大腿部頸部骨折)について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 大腿骨頸部骨折 ①疾病の概念 1)大腿部頸部骨折とは 2)分類 2 診断と治療 ①診断②治療 (1)保存療法 (2)手術療法 (ガンマネイル法・エンダー釘固定) | |
| 第11回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | Ⅱ、骨筋肉系(大腿部頸部骨折)について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 2 診断と治療 ①診断②治療 (1)保存療法 (2)手術療法 (ガンマネイル法・エンダー釘固定) | |
| 第12回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | 腰椎圧迫骨折について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 腰椎圧迫骨折 ①疾病の概念 1)発生機序 2)分類 3)病態の変化 | |
| 第13回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | 腰椎圧迫骨折について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 腰椎圧迫骨折 症状・診断・治療(1)症状—円背、偽関節 (2)診断(3)治療 | |
| 第14回 | 講義形式 授業を通じての到達目標 | 骨折について説明することができる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1疾病の概念 1)定義 2)分類 ①病的骨折・脆弱骨折 | |
| 第15回 | 講義演習形式 授業を通じての到達目標 | 骨折について説明することができる | 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院 |
| | 各コマにおける授業予定 | 2. 症状・診断・合併症・治療 1)症状2)診断3)合併症4)治療 | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-------------|---|---------------------------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 治療論Ⅱ(微生物学) | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 15 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 三好伸一 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 微生物は多種多様で、ヒト、動植物と密接な関係を持っている。ヒトと動物に関わる微生物について概略を知り、微生物を制御する方法、印象発生の仕組みを理解する。感染予防の意義と感染予防や予防活動について学び、感染対策における看護の役割へ繋げて考えられるようにする。また、感染に関するニュース、身近な話題に興味・関心を持ち、病原体がどのように感染症の発祥につながり人々の健康を脅かすのか理解を深める。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門基礎分野4 微生物学 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 配布資料を必ず事前に読んでおくこと | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 復習問題に取り組み理解を深めること | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1.微生物学を学ぶ意義について述べるができる 2. 各種の形態と特徴について述べるができる | 系統看護学講座 専門基礎分野4 微生物学 医学書院 | 教科書の該当箇所を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 微生物と微生物学 細菌の形態と特徴 細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 感染源・感染路について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野4 微生物学 医学書院 | 教科書の該当箇所を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 感染と感染症(1) 感染源・感染経路からみた感染症 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 自然免疫・獲得免疫の仕組みについて説明できる 2. 自然免疫・獲得免疫の仕組みについて説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野4 微生物学 医学書院 | 教科書の該当箇所を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 感染に対する生体防御機構(1) | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1. 抗原と抗原特異免疫について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野4 微生物学 医学書院 | 教科書の該当箇所を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 感染に対する生体防御機構(2) 演習問題(3) | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 1.感染症の予防について説明できる 2.感染症の現状と対策について述べるができる | 系統看護学講座 専門基礎分野4 微生物学 医学書院 | 教科書の該当箇所を読んでおく | |
| | 各コマにおける授業予定 | 感染症の予防 感染症の現状と対策 感染症の検査と診断 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|-------------------------------------|-----------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 主な病原細菌の特徴について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野4 微生物学 医学 書院 | 教科書の該当箇所を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 病原細菌と細菌感染症 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1. 病原真菌と真菌感染症について説明できる 2. 病原ウイルスとウイルス感染症について説明できる | 系統看護学講座 専門基礎分野4 微生物学 医学 書院 | 教科書の該当箇所を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 病原真菌と真菌感染症 病原ウイルスとウイルス感染症 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 終講試験 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|---------|-----------------|--|-----------------------------|---------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 基礎看護学概論 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 武内 孝江 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 看護の基本となる概念を体系的に理解し、保健・医療・福祉の広い視野で、看護の機能・役割を理解する。また人間理解を基盤とした上で、専門職業人としての、倫理的態度を養う。看護に関する過去と現在・未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解させると同時に、看護学の豊かさ、深さをイメージさせ、関心を高め、各領域の看護学への学習意欲を発展させるための学習をする。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野1看護学概論 医学書院 医療倫理学のABC メヂカルフレンド社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護覚え書 日本看護協会出版会 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 教科書以外の教材を使用し、看護や看護理論、看護の変遷等について幅広く学習する | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 積極的に授業に取り組み、意見を述べましょう。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護の基本概念を理解する | 看護学概論 資料 | 看護について、今現在の考えをまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護の本質、看護学を学ぶ意味、看護の変遷 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 主要概念について考えることができる | 看護学概論 資料 | それぞれの概念について意味を調べる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護の定義・人間 環境 健康 看護とは | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護に関するいくつかの理論を理解する | 看護学概論 資料 | 理論家について 図書で調べる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護理論家達による看護の定義「私の考える看護」 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 基本的ニーズより、看護とは何か学ぶ | 看護学概論 看護の基本となるもの(ヘンダーソン) | ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」を読んでおく | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ヘンダーソン「看護の基本となるもの」、基本的にニーズ14項目 グループでまとめる | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護の覚え書より、近代看護の確立について学ぶ | 看護学概論 看護の覚え書(ナイチンゲール) | 看護覚え書について考えをまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ナイチンゲール「看護覚え書」グループでまとめる | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|---|---------------------------|------------------------|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 発表を聞いて、看護についての考えを深める | 看護学概論 看護の基本となるもの 看護覚え書 | 看護について自分の考えをまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 グループワークの発表 「看護の基本となるもの・ナイチンゲール覚え書」 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 看護の役割と機能について学ぶ | 看護学概論 | 教科書で予習する |
| | | 各コマにおける授業予定 看護の機能と役割、ケアとは、看護実践とその保障に必要な要件 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 看護活動の拡大について学ぶ、多職種との連携について学ぶ | 看護学概論 | 教科書で予習する |
| | | 各コマにおける授業予定 看護の機能、役割の拡大、疾病の構造変化と看護活動の場 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 人間について理解することが出来る | 看護学概論 | 教科書で予習する |
| | | 各コマにおける授業予定 看護の対象となる人間の理解、ホメオスターシス、ストレス理論 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 人間の発達段階とその課題について学ぶ | 看護学概論 | 人間の発達段階について学習する |
| | | 各コマにおける授業予定 生涯発達し続ける存在：エリクソン、ハヴィガースト人間の暮らしの理解 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 健康について理解することが出来る | 看護学概論 | 健康について学習する |
| | | 各コマにおける授業予定 健康の理解：健康の定義、障害の定義 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 国民の健康の全体像を知る | 看護学概論 | 教科書で予習する 統計について予習する |
| | | 各コマにおける授業予定 人々の生活と健康に関する統計、看護職者としての健康な生活 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 専門職業人としての倫理的態度を養う | 看護学概論 資料 | 看護理論について学習する |
| | | 各コマにおける授業予定 看護倫理について | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 看護管理の目的とその過程・マネジメントのあり方 チーム医療・医療安全の必要性を学ぶ | 看護学概論 資料 | 看護管理・医療安全について予習する |
| | | 各コマにおける授業予定 看護管理 医療安全について | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 災害時の看護師の役割・国際交流 協力の意義を認識する | 看護学概論 | 広がる看護の活動領域について学ぶ |
| | | 各コマにおける授業予定 災害時の看護について学ぶ 国際化と看護(世界的課題・国際保健の基本理念) | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|----------|---|---------------------------------|-------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 基礎看護技術 I | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 通年 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 武内 孝江 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 看護技術とは、対象にとってよりよい看護ケアを提供するために取得すべき技術の一つであり、また技術体系である。看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術のうち、土台部分となる技術と言える。ここではすべての基礎看護技術の基盤にあるコミュニケーション技術、看護を計画的に展開する際基本となるヘルスアセスメント技術、アセスメントに基づく情報を活用して看護を展開する(看護過程の展開)技術について学習する。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 系統看護学講座 専門分野2 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野3 基礎看護技術 II 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 図書室にて参考になる事例で、看護過程の展開について自分なりに学習する | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 積極的に参加すること。課題の提出物の期限を厳守すること。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 基礎看護技術の特徴と基本原則を理解する | 基礎看護技術 I | 基礎看護技術の教科書にて、内容を簡単に予習する | |
| | | 各コマにおける授業予定 基礎看護技術とは 基礎看護技術の特徴、基本原則、構成 看護学生に求められる範囲と遂行に求められる能力 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 コミュニケーションの意義と目的を理解する | 基礎看護技術 I 資料 | コミュニケーションの重要性について調べる | |
| | | 各コマにおける授業予定 コミュニケーションの意義と目的 人間のコミュニケーションの特徴 医療におけるコミュニケーション | | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 効果的なコミュニケーションを体験し習得する | 基礎看護技術 I 資料 演習 | 演習のための学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 効果的なコミュニケーションの実際 コミュニケーション障害への対応 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 情報収集の技術を習得する | 基礎看護技術 I 資料 | 教科書にて該当するところを学習する | |
| | | 各コマにおける授業予定 情報収集の技術(オープン・クローズドクエスチョン) アサーティブネス | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 看護過程について理解する | 基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料 | 看護過程について事前学習する | |
| | | 各コマにおける授業予定 看護過程とは 看護過程の意義 看護過程の各段階 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|----------------------------------|-----------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 情報収集の方法を理解する | 基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料 | 情報について理解する |
| | | 各コマにおける授業予定 | 情報〔データ〕の収集 情報をもつ意味を考える 情報を分析する道筋 | | |
| 第7回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ゴードンの11項目を理解し、実際にGWを通して体験し、その技術を習得する。 | 基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料 | ゴードンの枠組みについて学習する グループワーク |
| | | 各コマにおける授業予定 | ゴードンの11項目についてGW／発表 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護問題の明確化、計画・実施・評価の方法を理解する | 基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料 | 資料・参考書を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護問題の明確化 看護計画・実施 評価の方法 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護記録について理解する | 基礎看護技術 I 資料 | 資料にて予習する |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護記録について | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護診断について理解する | 基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料 | 診断ブックの使い方を理解する |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護診断について | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護診断のタイプを理解し、ハンドブックの使い方を習得する | 基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料 | ハンドブックの使い方に慣れる |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護診断のタイプ ハンドブックの使い方 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護診断のP, E, Sについて理解する | 基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料 | 資料を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 情報収集(S, O, A) 看護診断(P, E, S) | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 優先順位の付け方、期待される結果の表記の方法について理解する | 基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料 | 資料、教科書を読んでおく |
| | | 各コマにおける授業予定 | 優先順位について、期待される結果 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 目標の表現の仕方について理解する | 基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料 | 資料にて予習する |
| | | 各コマにおける授業予定 | 長期目標・短期目標について 共同問題について | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | OP, TP, EPについて意味と表現方法を理解する 実施と評価について理解する | 基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料 | 資料にて予習する |
| | | 各コマにおける授業予定 | 具体策(O-P, T-P, EP)・実施と評価の書き方 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|---------|-----------------|--|--------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 基礎看護技術Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時間 | 前期 | 教室名 | 1年教室・実習室 |
| 担 当 教 員 | 横田 理香 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 看護における技術の重要性を理解し、看護展開の基礎となる基本的技術のうち、感染予防・安全・安楽の技術の概要と具体的方法について理解する。 人々の健康を促進するための必要な日常生活行動の援助に関わる援助方法の基本について学ぶ。 人間にとっての環境の意味を理解して、健康的な生活環境を整えるための援助方法を習得する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術が見える1・2 メディックメディア | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 技術習得に関しては、自己学習時間での反復練習、また、原理原則に沿った基本的技術のうち、感染予防・安全・安楽に関する事前復習をして望む。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 安全管理の重要性を理解し、あらゆる状況下にある患者の安全を守り、事故を未然に防ぐための知識・技術・態度を理解し、説明することができる | テキスト 配布資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 看護技術とは 衛生学的手洗い | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 安楽の意味を、看護を受ける人の視点から考え、看護援助へとつなげ実践できる知識・技術・態度を習得し、説明することができる | テキスト 配布資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | I. 環境整備技術 1.療養生活の環境 2.病室の環境のアセスメントと調整 3.援助の実際 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護実践に必要な環境について理解し説明することができる | テキスト 配布資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 援助の実際 1. ベッドメイキング 2. リネン交換 3. ベッド周囲の環境整備 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる | テキスト 配布資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | リネンのたたみ方 ベッドメイキング 演習 | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる | テキスト 配布資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ベッドメイキング 演習 | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |

| | | | | |
|------|-------------|--|--------------|--|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | ベッドメイキング 演習 | テキスト 配布資料 | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | ベッドメイキング 演習 | テキスト 配布資料 | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、その基本である「手洗い」「個人防護具」の技術を習得でき、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 衛生的手洗い・個人防護具演習 | テキスト 配布資料 | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | Ⅱ. 感染防止の技術 1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策 | テキスト 配布資料 | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | ベッドメイキング技術試験 | テキスト 配布資料 | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 看護実践に必要な環境について理解し、その中で「シーツ交換」の技術を習得でき、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 環境整備 臥床患者がいる場合のシーツ交換 演習 | テキスト 配布資料 | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 安楽の意味を、看護を受ける人の視点から考え、看護援助へとつなげ実践できる知識・技術・態度を習得し、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 温罨法・冷罨法演習 | テキスト 配布資料 | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | Ⅱ. 感染防止の技術 1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策 | テキスト 配布資料 | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 感染経路別予防策 感染経路別予防策の基礎知識 洗浄・消毒・滅菌 | テキスト 配布資料 | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 感染防止の技術 演習 ・滅菌ガウン着脱、滅菌手袋着脱 ・鑷子と綿球の取り扱い・滅菌布の開け方 | テキスト 配布資料 | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|-------------|---|-------------|---|---------------|
| 科 目 名 | フィジカルアセスメント | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 教室・実習室 |
| 担 当 教 員 | 横田 理香 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 看護の対象者の健康状態を把握するための知識と技術を学ぶ。生命を維持する上で必要なバイタルサイン測定 of 技術や健康状態の評価に必要なフィジカルアセスメントの理論と方法を修得する。演習ではシミュレーターや模擬患者体験をして、計測の仕方や正確な情報収集、情報からのアセスメントの実際を学習する。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 小テスト・課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験・技術試験で総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 系統看護学講座専門分野2 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 講義前に事前課題(レポート課題・演習の手順書作成)などを提示する。演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| バイタルサイン測定、系統別フィジカルアセスメントを確実に習得できるよう、家族や友人など健康な人でお互いに技術を高めあう。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を学ぶ。 | テキスト DVD | (課題) 問診表の作成 講義内容の復習(小テスト実施) | |
| | 各コマにおける授業予定 | ヘルスアセスメントが持つ意味(意義と目的)・ヘルスアセスメントにおける観察・問診の技術 | | | |
| 第2回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 一般状態の観察、生命の兆候であるバイタルサインを測定の意義を学び、バイタルサインの基礎的知識(体温)を習得する。 | テキスト DVD | (演習前課題) 体温測定手順書作成 講義内容の復習(小テスト実施) | |
| | 各コマにおける授業予定 | バイタルサインの観察とアセスメント・体温と発熱、体温測定の方法 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 バイタルサインの基礎的知識(脈拍・呼吸・血圧)を習得する。 | テキスト DVD | (演習前課題) バイタルサイン測定・観察点の手順書作成 講義内容の復習(小テスト実施) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 脈拍・呼吸・血圧の測定方法(経皮的動脈血酸素飽和度含)測定値からの正常と異常を判断する基準とアセスメント | | | |
| 第4回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 バイタルサイン測定を基礎知識に基づいて実施できる。 | DVD | 講義内容の復習(小テスト実施) | |
| | 各コマにおける授業予定 | バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)の演習① | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 バイタルサイン測定結果の解釈と報告ができる。 | 測定器具 | (課題) 演習の振り返り | |
| | 各コマにおける授業予定 | バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)の演習② | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|---|---------------------------|--|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 身体計測の意義と計測方法の基礎的知識を取得する。 | テキスト DVD | (演習前課題) 身体計測の手順書を作成 講義内容の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 身体計測(身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲・握力計測)の基礎知識・測定方法 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 身体計測(身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲・握力)を実施できる。 | 測定器具 | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲・握力計測の実践 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸器系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。 | テキスト DVD | 講義内容の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | フィジカルアセスメントの基本・呼吸器系の基礎知識 呼吸器系のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診) | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 循環器系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。 | テキスト DVD | 講義内容の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 循環器系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診) | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 脳神経系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。 | テキスト DVD | 講義内容の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脳神経系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診) | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 感覚器系・口腔・外皮系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。 | テキスト DVD | (演習前課題) 呼吸・循環・脳神経系フィジカルアセスメントの手順書作成 講義内容の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感覚器系・口腔・外皮系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診) | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。 | シュミレーター 測定器具 評価スケール | (課題) 演習の振り返り 講義内容の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 呼吸・循環・脳神経系のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)の演習 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 乳房腋窩・腹部・筋骨格系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。 | テキスト DVD | (演習前課題) 腹部・筋骨格系フィジカルアセスメントの手順書作成 講義内容の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 乳房腋窩・腹部・筋骨格系のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診) 乳がんのセルフチェック | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 腹部・筋骨格フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。 | 測定器具 評価スケール | (課題) 演習の振り返り フィジカルアセスメント 総合演習課題レポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | 腹部・筋骨格のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)の演習 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。 | 測定器具 | (課題) フィジカルアセスメント 総合演習を振り返りレポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | フィジカルアセスメント総合演習 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|---------|-----------------|---|----------------|---|---------------|
| 科 目 名 | 生活援助論 I | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 教室・実習室 |
| 担 当 教 員 | 樺 健二 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 人間にとって生きるために必要な食事・栄養、排泄の意味を理解し、対象が健康な生活を送るために必要な基礎知識、援助技術を学習する。また、看護の有効性を裏付ける根拠を明らかにする必要性を理解し、模擬患者やシミュレーターにより実技の実践をする。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統的看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 II 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。 演習後は演習後の振り返り課題を提示する。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 自身の日常生活を振り返りながら、健康障害のある人の日常生活行動の援助が考えられるよう学ぶこと。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事援助の基礎知識として消化・吸収のメカニズムが説明できる | 基礎看護学 II | (課題) 消化器系の構造と名称を自己学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康生活における食事の意義 食事を摂取する身体の機能と消化・吸収のメカニズム | 配布資料 | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 摂食・嚥下能力のアセスメントの方法が説明できる | 基礎看護学 II | (課題) 咀嚼・嚥下のメカニズムを自己学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事摂取基準について、食欲と食行動に関する要素 アセスメント で提供される食事の種類と形態 | 配布資料 | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 栄養状態のアセスメントの方法を理解し、BMIを計算することができる | 基礎看護学 II | (課題) 皮下脂肪厚の測定方法を調べ学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 栄養状態のアセスメントの方法(BMIの意義と計算方法、評価基準) 栄養アセスメントに必要な検査データとその見方 摂食・嚥下訓練の方法とその実際 | 配布資料 | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事介助の具体的な方法を説明できる。 | 基礎看護学 II | (課題) 皮下脂肪厚の測定方法を調べ学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事援助の実際の方法 食事援助前・食事中・食後の観察ポイント 非経口的栄養摂取法について(経管栄養の種類と特 | 配布資料 DVD | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事介助技術(全介助)の実習を行う | 基礎看護学 II | (課題) 食事援助時の注意点、留意点を調べ学習、食事援助の手順書作成、演習の振り返り | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事援助技術の実際 | 看護がみえる演習に必要な物品 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|---|--|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事介助技術(全介助)の実習を行う | 演習に必要な物品 | (課題) 食事援助時の注意点、留意点を調べ学習、食事援助の手順書作成、演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事援助技術の実際 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間の排泄(排尿・排便に関するメカニズム、意義、排泄のアセスメントの方法)を理解し、健康的な生活を送るために必要な援助方法と基礎知識を習得する。 | 基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 DVD | (課題) レポート課題 講義の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排泄の意義～生物学的・心理的・社会的意義 自然は遺尿および自然排泄・排便の基礎知識 便のアセスメント | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 自然排尿・排便の援助方法を学ぶ。床上排泄やおむつによる排泄介助の方法の基礎知識を習得する。 | 基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 DVD | (課題) レポート課題 便器・尿器のあて方、おむつ交換の手順書作成講義の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 床上排泄の援助～尿器・便器のあて方 トイレにおける排泄介助 おむつによる排泄(おむつ交換) | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 床上での排泄援助、おむつによる排泄援助を模擬患者とシュミレーターで実践する。 | 基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 床上排泄の援助 演習 ～尿器・便器のあて方 おむつによる排泄援助 演習おむつのあて方・おむつ交換 模擬患者とシュミレーターで実践 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 排尿困難のある人への援助方法と基礎知識を習得する。 | 援助に必要な物品 DVD | (課題) レポート課題 一時導尿の手順書作成講義の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排尿困難のある人への援助～導尿(一時的・持続的)・失禁の原因と対応 | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 排尿困難にある人への援助で、一時的導尿の援助をシュミレーターで実践する。 | 援助に必要な物品 シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排尿困難のある人への援助の演習～導尿(一時的) シュミレーターで実践 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 排尿困難にある人への援助で、一時的導尿の援助をシュミレーターで実践する。 | 基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排尿困難のある人への援助の演習～導尿(一時的) シュミレーターで実践 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 排便困難のある人の援助の方法(浣腸・摘便)と基礎知識(便秘)を習得する。また、ストーマケアについて理解する。 | 基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 DVD | (課題) レポート課題 浣腸の手順書作成 講義の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排便困難のある人への援助～便秘について 便秘のアセスメント・便秘改善の看護・浣腸・摘便 ストーマケア | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 排便困難にある人への援助で、浣腸の援助をシュミレーターで実践する。 | 基礎看護学Ⅱ 看護がみえる 援助に必要な物品 シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排便困難のある人への援助の演習～浣腸 シュミレーターで実践 | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 排便困難にある人への援助で、浣腸の援助をシュミレーターで実践する。 | 基礎看護学Ⅱ 看護がみえる 援助に必要な物品 シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排便困難のある人への援助の演習～浣腸 シュミレーターで実践 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|-------------|---|----------------|-------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 生活援助論Ⅱ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 教室・基礎看護実習室 |
| 担 当 教 員 | 水谷 圭・森本 彩子 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 人間にとっての活動と休息、身体の清潔の意味を理解して、対象が健康生活を送るため必要な援助の方法を習得する | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験・技術試験により総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 系統的看護学講座 専門Ⅰ基礎看護学Ⅱ 基礎看護学 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。演習後は演習後の振り返り課題を提示する。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 予習復習をして、講義に臨むこと。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 基本的活動の基礎知識として、各体位を説明できる。 | 基礎看護技術Ⅱ | 予習復習をして、講義の内容をまとめる | |
| | 各コマにおける授業予定 | 良い姿勢 体位 | | | |
| 第2回 | 講義実習形式 | 授業を通じての到達目標 ボディメカニクスの原則および体位変換や移動動作の基本的知識を学ぶ | 基礎看護技術Ⅱ DVD | 予習復習をして、講義の内容をまとめる | |
| | 各コマにおける授業予定 | ボディメカニクス 体位変換 移動、移乗、移送 | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 ボディメカニクスを活用して、体位変換ができる。 | 援助に必要な物品 | 演習事前レポート (体験、手順、留意点) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 演習:体位変換、体位保持の援助の実際 | | | |
| 第4回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 ボディメカニクスを活用して、移乗・移送ができる。 | 援助に必要な物品 | 演習事後レポート (追加修正、振り返り) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 演習:車椅子やストレッチャーの移乗・移動・移送の援助の実際 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 睡眠・休息の基礎知識を学び、援助について説明できる。 | テキスト DVD | 予習復習をして、講義の内容をまとめる | |
| | 各コマにおける授業予定 | 援助の基礎知識 睡眠・休息の援助 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--|----------------------|---------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 身体の清潔援助の基礎知識を習得する。 人間にとっての清潔援助の必要性を理解し、整容と口腔ケアについて学ぶ | 基礎看護技術Ⅱ | (課題) 口腔ケアの演習手順書の作成 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の基礎知識 清潔の意義と効果 皮膚粘膜の構造と機能 整容・口腔ケ | DVD | 課題レポート 講義内容の復習(小テスト実施) |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 口腔ケアの援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学 | 看護が見える援助に必要な物品 DVD | (課題) 演習後の振り返り 課題レポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の演習①口腔ケア | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 清潔援助の方法選択の視点を理解し、入浴・シャワー浴、全身清拭、寝衣交換の基礎知識や援助の方法を習得する。 | テキスト DVD | (課題) 全身清拭・寝衣交換の演習手順書の作成 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の実際～入浴・シャワー浴、全身清拭、寝衣交換 | | 講義内容の復習(小テスト実施) |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 全身清拭・寝衣の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法 | 援助に必要な物品 DVD | (課題) 演習後の振り返り 課題レポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の演習②全身清拭・寝衣交換 模擬患者に実施 | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 全身清拭・寝衣の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法 | 援助に必要な物品 DVD | (課題) 演習後の振り返り 課題レポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の演習②全身清拭・寝衣交換 模擬患者に実施 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 状況に応じて、清潔援助を実施する必要性を理解し、部分的な清潔援助の基礎知識と援助の方法を習得する。 | 基礎看護技術Ⅱ | (課題) 足浴・洗髪の演習手順書の作成 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の実際～部分浴 手浴・足浴、洗髪 | DVD | 講義内容の復習(小テスト実施) |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 洗髪の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学 | 基礎看護技術Ⅱ 援助に必要な物品 DVD | (課題) 演習後の振り返り 課題レポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の演習③～洗髪 模擬患者に実施 | | |
| 第13回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 足浴の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学 | 基礎看護技術Ⅱ 援助に必要な物品 | (課題) 演習後の振り返り 課題レポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | 生活援助の演習④～足浴 模擬患者に実施 | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 状況に応じて、清潔援助を実施する必要性を理解し、部分的な清潔援助の基礎知識と援助の方法(陰部洗浄)を習得する。 | 基礎看護技術Ⅱ | (課題) 陰部洗浄の演習手順書の作成 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の実際～陰部洗浄 | DVD | 講義内容の復習(小テスト実施) |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 陰部洗浄とおむつ交換の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学 | シュミレーター 援助に必要な物品 | (課題) 演習後の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 清潔援助の演習⑤～陰部洗浄・おむつ交換 シュミレーターと模擬患者で実施 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|---------------|---|-------------------------|--|---------------|
| 科 目 名 | 診療の補助技術 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 教室・基礎看護実習室 |
| 担 当 教 員 | 樺 健二 森本 彩子 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 人々の健康を促進するために必要な、診療の補助行為に関わる基礎知識と援助方法を学習する。検査を受ける人への援助、薬物療法が必要な人に対して、安全に薬剤投与が実施できるようにする。注射・採血・輸血の管理に関する基礎知識を理解し、実際に実施ができる。また、創傷管理(褥瘡を含む)の基礎知識並びに援助技術について学び、安全で安楽に療養生活を送ることができるような看護を学ぶ。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。 演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 解剖生理学の知識を活用し、注射及び採血時の合併症や注意点を理解し実施ができる。事故防止のための6Rの安全確認を身につけることができる。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 検査の基礎知識や検体検査について学ぶ。 検体検査の種類と検体の採取、取り扱いについての基礎知識を習得する。 | テキスト | (課題) 講義の復習(小テスト実施) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 検査の基礎知識 検査時の援助 検体検査(尿・便・血液・喀痰) | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 検査・治療の意義および検査・治療における看護師の役割について習得する。 | テキスト | (課題) 課題レポート 講義の復習(小テスト実施) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 検体検査の種類と援助方法 X線検査・CT・MRI・内視鏡・超音波検査 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 各検査の目的・特徴・看護の基礎知識を習得する。 | テキスト DVD | (課題) 課題レポート 講義の復習(小テスト実施) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 生体検査の種類と援助 スパイメトリー・核医学検査・ 穿刺検査(腹腔・胸腔・腰椎・骨髄)・組織検査 | | | |
| 第4回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 皮膚・創傷管理・褥瘡・褥瘡評価の基礎知識を学び、創傷処置の方法 | テキスト DVD | (課題) 課題 レポート 創傷処置 の手順書作成 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 皮膚・創傷管理の基礎知識 創傷処置の方法 褥瘡・褥瘡評価 | | | |
| 第5回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 包帯法の基礎知識を習得する。 | テキスト DVD 援助に必要な物品 | (課題) 課題 レポート 包帯法の 手順書作成 講義の復習(小テスト実施) | |
| | 各コマにおける授業予定 | 包帯法(一部演習) | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|----------------------------------|---|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 創傷処置・包帯法の一部を模擬患者で、実践する。 | 演習に必要な物品 | (課題) 演習後の振り返り |
| | 各コマにおける授業予定 | 創傷処置・包帯法の演習 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 与薬方法の種類とそれぞれの投与方法について説明ができる | テキスト 補助教材(配布資料) | (課題) 経口投与、口腔内投与の特徴を調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | 与薬の基礎知識と薬物療法における看護師の役割 薬剤の管理方法、経口与薬・口腔内与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的投与・直腸内投与の特徴と援助の基礎知識 | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 血液検査の種類とその特徴を説明することができる | テキスト 補助教材(配布資料) | (課題) 静脈血採血に適している静脈の部位を調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | 血液検査(静脈血採血・動脈血採血・血糖測定)時の援助の実際 注射の種類・安全な注射の原則(6R)・注射器と注射針の種類と構造 輸血管理における援助の基礎知識 | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | 静脈血の採血(検体採取)の実習を行う | DVD 採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド) | (課題) 演習時のチェックリスト 演習後グループでの振り返り気づきをまとめ発表する |
| | 各コマにおける授業予定 | 採血方法の演習① 注射器・注射針の取り扱い方 シリンジを使用した静脈血採血の実際(採血用シュミレーター使用) | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | 静脈血の採血(検体採取)の実習を行う | 採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド) | (課題) 演習時のチェックリスト 演習後グループでの振り返り気づきをまとめ発表する |
| | 各コマにおける授業予定 | 採血方法の演習② 注射器・注射針の取り扱い方 シリンジを使用した静脈血採血の実際(採血用シュミレーター使用) | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | 皮下注射と筋肉内注射の注射部位、注射方法の違いが説明できる | テキスト 補助教材(配布資料) DVD | (課題) 筋肉内注射に使用する三角筋、中臀筋周囲の解剖生理を調べ学習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 注射方法の基礎知識① 注射の実施方法(皮下注射・筋肉内注射) | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | アンプルから薬液を吸い上げて皮下注射の実習を行う | 皮下注射用パッド 演習に必要な物品 | (課題) アンプルから薬液を注射器で吸い上げる時の注意点をテキストから調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | 注射方法の演習③ アンプルの吸い上げ方 皮下注射の実施方法(シュミレーター使用) | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | バイアルの薬剤を溶解し吸い上げて筋肉内注射の実習を行う | 筋肉内注射用シュミレーター(臀部モデル) 演習に必要な物品 | (課題)バイアルの特徴と溶解時の注意点、吸い上げる時の留意点を調べる |
| | 各コマにおける授業予定 | 注射方法の演習④ バイアルの溶解方法とバイアルからの吸い上げ方 筋肉内注射の実施方法(シュミレーター使用) | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | 静脈内注射についてその種類と特徴を説明することができる | テキスト 補助教材(配布資料) DVD | (課題) 点滴セットの種類による滴下数の計算方法(練習問題) |
| | 各コマにおける授業予定 | 注射方法の基礎知識② 注射の実施方法(静脈内注射・点滴静脈内注射) 点滴の滴下数の計算方法 | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | 翼状針による点滴静脈内注射の実習を行う | 採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド) | (課題) 点滴静脈内注射の手順書を作成する |
| | 各コマにおける授業予定 | 注射方法の演習⑤ プラスチックアンプルの吸い上げ方 点滴の滴下数の調節方法 翼状針による点滴静脈内注射の実施方法(シュミレーターを使用) | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|-------------|--|-------------|----------------------------------|---------------|
| 科 目 名 | 臨床看護技術 I | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 15 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 教室・基礎看護実習室 |
| 担 当 教 員 | 森本 彩子 | 実務経験と その関連資格 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 看護の基本として様々な健康上のニーズを持つあらゆる年齢層の人々に既習の基本的な看護の考え方や知識・技術を統合して応用するプロセスや看護の実際・実践を学ぶ。 看護の対象者の健康レベルは、常に変動している。健康レベルが何らかの治療が必要となる程度の変化をきたす場合、その健康レベルの変化にはいくつかの特徴が見られる。その健康段階に応じた看護を学習する。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 出席ならびに課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験で総合的に評価 | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統学看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 系統学看護学講座 専門 I 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 講義前に事前課題(レポート課題・演習の手順書作成)などを提示する。演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 課題の提出期限を厳守すること。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第 1 回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 臨床看護の意義と目的を理解する。 ライフサイクル各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。 | テキスト | (課題) ライフサイクル について教科書予習 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 臨床看護とは ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ | | | |
| 第 2 回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 健康状態の経過別各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。 | テキスト | (課題) 健康状態別経過 について教科書予習 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 健康状態の経過に基づく看護 健康の維持・増進を旨とする看護 | | | |
| 第 3 回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 健康状態の経過別各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。 | テキスト | (課題) 健康状態別経過 について教科書予習 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 健康状態の経過に基づく看護 健康の維持・増進を旨とする看護 | | | |
| 第 4 回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 心肺蘇生法(AED)を習得する | テキスト DVD | (課題) 心肺蘇生法 (AED)について教科書 予習 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 看護援助 心肺蘇生法(AED) | | | |
| 第 5 回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 死の看取りの援助方法を習得する | テキスト DVD | (課題) 見取りの援助 について教科書予習 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 死の看取りの援助 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--------------|-------------|---------------------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 死後の処置方法を習得する | テキスト DVD | (課題) 死後の処置方法について教科書予習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 死後の処置 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 止血法を習得する。 | テキスト DVD | (課題) 止血法について教科書予習 総合演習を振り返りレポート |
| | | 各コマにおける授業予定 | 止血法 まとめ | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 終講試験 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|--|---------|-----------------|---|----------------------------------|-----------------------------------|---------------|
| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
| 科 目 名 | 臨床看護技術Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 教室・実習室 |
| 担 当 教 員 | 横田 理香 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 人々の健康を促進するために必要な診療の補助行為に関わる援助方法の基本について学ぶ。主要症状に対して、人間の解剖生理学的メカニズムを理解し、対象の症状を改善するために必要な援助方法を習得する。また、今日の医療機器の発展は目覚しく多くの医療現場で使用されている。ME機器をどのような点に留意して患者に用いるのか、使用時の援助方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 出席ならびに課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験で総合的に評価 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統学看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| テキストを読み予習してから授業に臨むこと。復習を行うこと。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 積極的に授業に取り組むこと。提出物の期限を厳守すること。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 痛みのメカニズム・アセスメントについて理解し説明できる | 系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院 | 痛みの事例について事前学習 レポート課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 1. 痛みの生理学的メカニズム 2. 痛みに関するアセスメント | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 痛みのある患者の看護について理解し説明できる。 | 系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院 | 授業内容の復習(小テストの勉強) 呼吸器の解剖生理学の予習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 1. 痛みに影響をする心理的要因 2. 痛みの治療 3. 痛みを持つ患者の看護 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸障害を持つ患者のメカニズム・疾患について学び理解できる | 系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院 | 授業内容の復習 呼吸障害の看護について教科書で予習学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 1. 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ | | | |
| 第4回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸障害を持つ患者の看護について共有し説明できる | 系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院 | レポート課題 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 1. 呼吸を楽にする方法の選択 2. 呼吸障害を持つ患者の看護 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 循環器を理解し、アセスメントすることができる。 | 系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院 | 授業の内容の復習(小テストの勉強) 循環器の解剖生理学の予習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 1. 循環の生理学的メカニズム 2. 循環に関連するアセスメント | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|---|--------------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 循環障害を持つ患者の看護を学び、看護について説明できる。 | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 循環障害を持つ患者の看護 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 排泄障害を持つ患者の看護について事例を通し、共有し説明できる | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 | 授業の内容の復習(小 テストの勉強) |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 排尿障害のある患者の看護 2. 便秘の患者の事例 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 消化吸収について理解し、アセスメントできる。 | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 | 消化吸収障害の看護に ついて教科書で予習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 消化吸収・排泄の生理学的メカニズム 2. 栄養障害について | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 意識障害のメカニズムを理解し、アセスメントできる | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 | 授業の内容の復習(小 テストの勉強) |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 意識障害のメカニズム 2. 意識障害に関連するアセスメント | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 意識障害のある患者の看護を理解し説明できる | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 意識障害を持つ患者の看護 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 ME機器の原理と実際を学び説明できる | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 ME機器 DVD | レポート課題 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 医療機器の使用目的 2. 医療機器の原理 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 測定用医療機器を実際に触れ、原理と実際を学び共有できる | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 ME機器 DVD | 12誘導心電図測定演習 の手順書の作成 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 医療機器の使用手法 2. 医療機器の保守点検 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 シュミレーションを使用し12誘導心電図の技術を理解し、グループで共有できる | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 シュミレーション | 演習後の振り返りレ ポート 吸引演習の手順書作成 |
| | 各コマにおける授業予定 | フィジコを用いた12誘導心電図の実施 | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 シュミレーションを使用し吸引の技術を理解でき、共有できる | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 シュミレーション | レポート課題 |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 口腔・鼻腔内吸引の実施 2. 閉鎖式気管内吸引の実施 | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 シュミレーションを使用し吸引の技術を理解でき、共有できる | 系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 シュミレーション | 演習後の振り返りレ ポート |
| | 各コマにおける授業予定 | 1. 口腔・鼻腔内吸引の実施 2. 閉鎖式気管内吸引の実施 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-------------|-----------------|---|----------------------|---|---------------|
| 科 目 名 | 地域・在宅看護概論 I | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 45 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 通年 | 教室名 | 1年教室 / 他 |
| 担 当 教 員 | 七瀬 光美 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 地域で実践する看護活動の場とさまざまな職種連携の実際を理解し、地域包括ケアシステムの概念を学ぶ。所在する学校周辺の地域の生活圏・生活環境を知るためにフィールドワークにて、地域の特性、文化、その地域で暮らす人々の生活の様子、健康への意識、環境が与える健康への影響などを理解する。また、グループワークを通して調べ学習や地域に出向き実態調査の実施や地域の人たちへのインタビュー、公的機関、民間企業の場合へ訪問などをして現状を把握し、自助・互助・の在り方、地域の特性からわかる健康問題などを探求する。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統別看護学講座 地域在宅看護1・II 医学書院 ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域を支えるケア メディカ出版 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 医歯薬出版 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 講義の復溜と予習 課題提示したレポート作成 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 地域看護の目的や変遷について理解することができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと 介護保険法の基礎知識 小テストで確認する | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 地域看護の目的・変遷 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 地域包括システムの概念を理解し、基本的なことが説明できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 地域包括ケアシステムの概念 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 地域で活動する看護師の役割や活動の場について説明できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 地域で実践する看護活動の場と看護師の役割 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 地域在宅看護の対象、地域での暮らしや文化を理解できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 地域在宅看護の対象 地域の人々の暮らし・文化(コミュニティ・生活圏) | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | インタビューや訪問マナーを学び実践で活用できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 訪問時のマナー・接遇・インタビューの仕方 演習・ロールプレイ レポート事前課題 接遇・マナーについて調べてまとめる | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|----------------------|-------------------|
| 第6回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 地域の暮らしや文化を調べ、インタビュー内容を作成できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 身近な地域の人々の暮らし・文化を調べよう GW・インタビュー内容の作成 | | |
| 第7回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 インタビューした内容から、地域での暮らし文化について理解できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 身近な地域の人々との交流 地域での暮らし文化についてインタビューして実際に知ろう インタビュー後の振り返り レポート | | |
| 第8回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | まとめ 発表 身近な地域の人々との交流したことのグループ発表 | | |
| 第9回 | 講義 形式 | 授業を通じての到達目標 暮らし・環境が与える健康への影響、地域での健康支援について説明できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 暮らしと環境が健康に与える影響 地域で暮らす人々の健康とその支援 | | |
| 第10回 | 講義 形式 | 授業を通じての到達目標 地域保健医療福祉行政と活動に関する法律を理解できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 地域保健医療福祉行政と活動に関する法律 | | |
| 第11回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 グループワークにて地域で実践されている健康支援について調べ、その調べたことを説明できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 地域で実践されている健康に関する支援を調べよう GW | | |
| 第12回 | 講義 形式 | 授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関の役割を理解し、実際に訪問するときの準備ができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 地域包括ケアシステムに関するさまざまな機関と役割 レポート課題 本日の講義内容をまとめる | | |
| 第13回 | 講義 形式 | 授業を通じての到達目標 地域保健医療福祉ネットワークし、さまざまな療養の場を説明できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | さまざまな療養の場と地域保健医療福祉ネットワーク 社会資源の活用 | | |
| 第14回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関を訪問して、各機関の役割を理解することができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 身近な地域での保健医療福祉のさまざまな機関と地域包括ケアシステムの実際を調べよう グループで地域に出かけて関係する機関を訪問してみよう | | |
| 第15回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関を訪問して、各機関の役割を理解することができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 身近な地域での保健医療福祉のさまざまな機関と地域包括ケアシステムの実際を調べよう グループで地域に出かけて関係する機関を訪問してみよう | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------------|--|----------------------|-------------------|
| 第16回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 地域看護に必要な理論・地域包括支援センターの役割を理解できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 地域看護に必要な理論・地域包括支援センターの役割 身近な地域特性を調べよう GW | | |
| 第17回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 地区踏査をして地域の特性を理解することができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 身近な地域特性の調査(地区踏査) 産業・対象の特性・生活支援を支える行政や民間の実態 | | |
| 第18回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 地区踏査をして地域の特性を理解することができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 身近な地域特性の調査(地区踏査) 産業・対象の特性・生活支援を支える行政や民間の実態 | | |
| 第19回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 まとめ 発表 | | |
| 第20回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 対象別の保健活動し、地域での健康づくり支援について説明できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 対象別の保健活動 地域の健康づくりを推進するための地区組織育成活動 GWで地域の健康づくりを推進するための地区組織育成活動の 実際を調べよう | | |
| 第21回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 イベントを実施するための計画立案をすることができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 身近な地域での健康づくり支援 学生が企画運営をするイベントの内容計画 ふれあいサロン・介護認知症予防など 振り返りレポート | | |
| 第22回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 イベント企画したことが実践できる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 身近な地域での健康づくり支援 学生が企画運営をするイベントの実施 ふれあいサロン・介護認知症予防など 振り返りレポート | | |
| 第23回 | 講義 演習形式 | 授業を通じての到達目標 グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる | ipad テキスト 配布資料 | 該当単元を読んでおくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 まとめ 発表 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|---------|-----------------|---|--------------------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 成人看護学概論 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室A・B |
| 担 当 教 員 | 曾 紅 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 「成人とは何か」、ライフサイクルの中で成人期の発達段階、成長・発達の特徴、成人期の健康問題を理解する。生活者としての視点から成人をとらえ、価値観・健康観の多様性に応じた看護および生活と健康を守る保健・医療・福祉システムについて 学習する。2年次の成人看護学援助論の基礎となる内容である。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 成人看護の対象と役割を理解するためには、基礎分野一人間の生活・社会の理解、専門基礎分野一人体の構造と機能・疾病の成り立ち・健康支援と社会保障制度、専門分野一基礎看護学と関連づける。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 「大人とは」、成人期の発達段階と発達課題を述べることができる。 | 成人看護学総論 授業資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | カリキュラムにおける成人看護学の位置づけ 生涯発達の特徴 各発達段階の枠組みについて | | | |
| 第2回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人期にある人の特徴を説明できる。 | 成人看護学総論 授業資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 成人期にある対象の成長・発達の特徴 グループワーク・個人ワーク 1)身体的特徴・精神的特徴・社会的特徴 2)発達理論(エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン) | | | |
| 第3回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人期にある人の特徴を説明できる。 | 成人看護学総論 授業資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 成人期にある対象の成長発達の特徴発表 1)身体的特徴・精神的特徴・社会的特徴 2)発達理論(エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン) | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人期にある人の生活について述べることができる。 | 成人看護学総論 資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 働いて生活を営むこと 家族からとらえる大人について 人生をたどること | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人を取り巻く社会的動向と成人の生活について説明できる。 | 成人看護学総論 国民衛生の動向 資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 成人を取り巻く環境と生活の状況 成人の健康の状況 成人保健の動向 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|----------------------|--------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人期にある人の生活と健康問題について述べるができる。 | 成人看護学総論 国民衛生の動向資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | ライフスタイルと健康① 1)生活習慣に関する一食生活・運動習慣・喫煙・飲酒・ソーシャルメディアと依存 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人期にある人の生活と健康問題について述べるができる。 | 成人看護学総論 国民衛生の動向資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | ライフスタイルと健康② 1)職業、仕事をめぐる状況 2)ストレス・コーピング 3)セクシャリティ | | |
| 第8回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人期にある人の健康を守るシステムについて述べるができる。 | 成人看護学総論 国民衛生の動向資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | 生活と健康を守りはぐくむ保健・医療・福祉システム | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人期にある人への看護アプローチの基本について述べるができる。 | 成人看護学総論資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | アンドラゴジー(成人教育学)、行動変容、チームアプローチ、倫理的判断、意思決定支援、家族支援 | | |
| 第10回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人期にある人の健康レベルに対応した看護を述べるができる。 | 成人看護学総論資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | ヘルスプロモーションとは ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護を述べるができる。 | 成人看護学総論資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | 生命の危機状況 急性期にある人の看護 危機理論 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 慢性病との共存を支える看護を述べるができる。 | 成人看護学総論資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | 病みの軌跡、健康信念モデル エンパワメント セルフケアとセルフマネジメント | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 障害がある人の生活とリハビリテーション看護を述べるができる。 | 成人看護学総論資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | 障害がある人の理解 その生活を支援する看護 | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 人生最後のときを支える看護について述べるができる。 | 成人看護学総論資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | QOLの考え方 全人的苦痛とは 意思決定支援と看護師の役割 アドバンスケアプランニング | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 療養の場を移行する人への看護について述べるができる。成人看護の目的・役割を述べるができる。 | 成人看護学総論資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 | 退院支援とは まとめー成人看護の目的と役割 | | |

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|---------|-----------------|---|--------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 老年看護学概論 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1年教室 |
| 担 当 教 員 | 山田 英美 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 高齢者を統合的に理解し、高齢者の健康と生活を支える看護職者としての基本的な考えを学ぶ | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 終講試験・課題レポートにより評価 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 演習・講義の振り返り | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 高齢者の特性を理解し、イメージを肯定的に述べるができる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 高齢者の特徴 老いとは・高齢者のイメージ・高齢者の定義・高齢者の生きてきた時代 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 高齢者の発達段階や加齢に伴う身体・心理・社会的側面を説明できる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 加齢と老化・発達と成熟、加齢に伴う身体・心理・社会的側面 老年の発達課題・スピリチュアリティ | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 高齢者の喪失体験を理解し、高齢社会の構造を説明できる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 高齢者の喪失体験、健康寿命平均余命、高齢者の世帯 高齢社会の構造 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 高齢者の健康や暮らし方について述べるができる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 高齢者の健康・暮らし方 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 高齢者保健医療福祉の変遷を理解し、推進について述べることができる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 高齢者の保健医療福祉の変遷と推進 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|--|--------------|--------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 介護保険のしくみや目的など基本的なことを説明できる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 在宅医療ピンピンコロリ DVD 介護保険① 介護保険の目的・サービス導入の経緯 介護保険の基本的な知識 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 介護保険の概要を述べることができる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 介護保険② 介護保険の概要・サービスの仕組み | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 介護保険サービスについて説明できる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 介護保険③サービスの概要 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムにおける多職種連携について述べられる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 地域包括ケアシステムの中での多職種連携 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 地域連携の必要性を理解し、退院時の看護を説明できる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 地域連携における退院時の看護 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 高齢者の生活機能、入院時のスクリーニングのことを説明できる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 高齢者の生活機能のアセスメント 入院時のスクリーニング | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 老年看護に活用できる理論・アプローチについて述べるができる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 老年看護に活用できる理論・アプローチ | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 介護予防・フレイルサイクル・ロコモティブシンドロームについて説明できる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 高齢者のヘルスポロモーション 介護予防・フレイルサイクル・ロコモティブシンドローム | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 高齢者の虐待・成年後見制度のことを説明できる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 高齢者の権利擁護(アドボカシー) 高齢者の虐待・成年後見制度・老年観 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 社会資源の活用方法を述べるができる。 | テキスト 講義資料 | 講義後の復習をして講義内容をまとめる |
| | | 各コマにおける授業予定 まとめ GW～事例をもとに介護保険サービスについて学び、社会資源の活用について考える | | |